

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 6 月 29 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(S)

研究期間：2015～2019

課題番号：15H05709

研究課題名(和文)野生の認知科学：こころの進化とその多様性の解明のための比較認知科学的アプローチ

研究課題名(英文)Wild Cognitive Science: Comparative-Cognitive Approach toward Understanding Evolution and Diversity of Mind

研究代表者

友永 雅己 (TOMONAGA, Masaki)

京都大学・霊長類研究所・教授

研究者番号：70237139

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 152,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、さまざまな認知機能の総体である「こころ」の進化の道筋とその要因を明らかにすることにある。この目的を達成するために、『環境適応』の側面に光を当て、海-陸-森といった多様な環境に適応してきた各種哺乳類を対象に、認知能力を彼らの生息環境での詳細な観察と、飼育下での厳密な実験によって検討した。その結果、物理的な環境の認識では、基礎的な知覚特性から複雑な物体の認識の諸相について明らかにした。また、社会的環境の認識では、社会的コミュニケーションに必要な知覚・認知について実証的に明らかにした。さらに、大型類人猿や鯨類や鰐脚類の野外調査も積極的に実施した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の遂行によって、多様な系統群を対象に「野生」と「飼育下」をダイナミックにつなぐ形で新たな比較認知科学、つまり「野生に学び、ラボで究める」、「ラボで見だし、野生で探る」という双方向性の研究プログラムに立脚した「野生の認知科学(Wild Cognitive Science)」という新しい学問領域の創生の第一歩を踏み出すことができた。また、多様な環境に適応した動物たちの心の研究の成果は、知性のゆりかごたる生態環境の多様性の重要性を再認識させることに大いに寄与するものと考えられる。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this project is to clarify how and why our mind has evolved. To this end, we studied various kinds of mammal species in the wild and in captivity from the perspective of "adaptation to evolutionary environments". As a result, in the recognition of physical environments, we clarified various aspects of basic perceptual processes, perception and recognition of complex objects, integration of multiple sensory information, and the influence of the body on cognition. In the recognition of social environments, we empirically clarified the perception and recognition of vocal sounds, faces, bodies, and emotions necessary for social communication. In addition to these experimental studies, we conducted field research on great apes, cetaceans, and pinnipeds, and found new evidence from the ecology and social structure in the habitat to social behavior and communication.

研究分野：認知科学

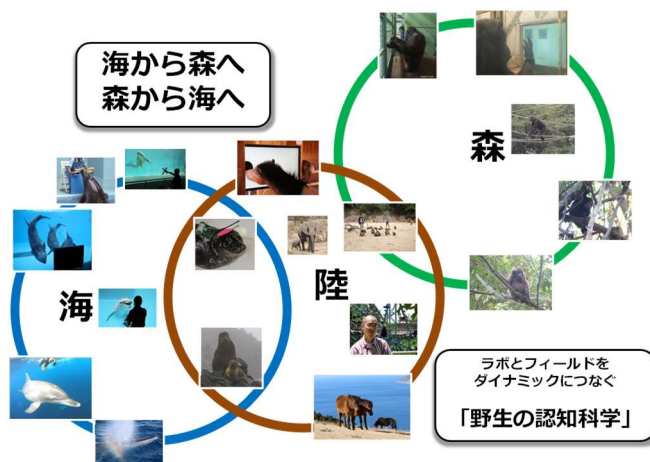
キーワード：霊長類 哺乳類 こころの進化 環境適応 比較認知科学

1. 研究開始当初の背景

すべての生物は、それぞれの進化の過程の中で系統関係の制約を受けつつも、多様な環境に適応していった。哺乳類という一つのカテゴリに注目しても、われわれヒトのように陸上に適応したものがあるだけでなく、イルカのように海に適応したもの、チンパンジーやオランウータンのように樹上環境に適応したものまでさまざまである。それぞれの環境に適応していく上で身体のドラスティックな変化が生じるのは言うまでもないが、同時にそのような環境に適応していくための認知能力にも多様な変化が生じていったはずである。これら多様な環境に適応した系統群のうち、ヒトを含む霊長類については比較的研究が進んではいるものの、他の系統群については圧倒的に知見が不足している。このような状況を少しでも突破すべく、われわれは、これまでイルカ類を対象にした認知研究を推進し、着実に成果を挙げてきた。今回の計画はこの成果を踏まえて、鯨類たちの「海のこころ」と霊長類の「森のこころ」をつなぐ陸生哺乳類や陸と海の両方に適応した鰭脚類を新たに研究対象に取り込むことにより、こころの進化におよぼす環境要因を総合的に明らかにすることを企図した。また、陸生哺乳類としてはウマなどを対象とした研究を新たに立ち上げた。彼らの物理的環境認識能力や社会的環境における認知能力を明らかにし、それを地上性霊長類であるヒトと比較することが、樹上性(類人猿)から地上性(ヒト)への移行という系統発生的な制約と開けた地上環境への適応を考える上でも重要であると考えた。さらに、系統発生的な制約とそれぞれの種の果たした環境適応の相互作用にも着目しつつ研究を進めることとした。

2. 研究の目的

以上のような背景や準備状況を踏まえ、本研究の大目標を、「われわれ人間の知性の進化を解明する」ことに設定した。近年の動物行動学、ゲノム科学、そして比較認知科学の進展により、われわれの体や社会だけでなく、さまざまな認知機能の総体である「こころ」も、進化の産物である、という理解が定着してきた。しかしながら、こころの進化の道筋の解明はまだ道半ばであり、こころがそのように進化してきた理由については、ほとんど手つかずの状態であるといえる。これらの問いに答えるためには、現生種を対象とした詳細な認知科学研究、すなわち比較認知科学研究以外に方法はない。そこで本研究ではヒトを含む霊長類だけでなく、多様な地球の環境に適応した系統群の哺乳類を対象に、総合的な比較認知科学研究をすすめることを構想した。本計画のもう一つの柱は、飼育下での実験と野外での観察等の相互連携による研究の推進である。近年ようやく動物の認知の研究者が研究対象の自然生息域を訪れ、「野生の」姿を見ることが浸透してきたが、この流れをさらに活性化させることを目指した。異なる系統群で「野生と飼育下」を同じく研究の場とするスタイルを共有することによって、これまでにない全くユニークな野生動物の認知科学(Wild Cognitive Science)の土台を構築する。「野生に学び、ラボで究める」、「ラボで見だし、野生で探る」。このような双方向性の研究プログラムの構築が本計画の目的の一つでもある。



3. 研究の方法

本計画では大きく霊長類(ヒト、大型類人猿など)、陸生哺乳類(ウマ、ヤギなど)、鰭脚類(アザラシ、オットセイなど)、そして鯨類(ハンドウイルカ、シャチ、ベルーガなど)を対象に研究を進めた。飼育下ではタッチパネル、視線計測装置、対面での実験などを駆使して、物理環境の認識、社会的環境の認識、および両者の相互作用について実験的に検討を進める。これらの方法は主として霊長類向けに開発されてきた技法であるが、他の系統群(鰭脚類、陸生哺乳類)に対しても適用できるように技術開発を同時に進めていく。また、イルカについては音響タッチパネルやイルカ用視線追従装置、高精度マイクロホンアレイによる音声記録装置などを開発し、これまでにない斬新な認知研究を進める。これらに加えて、海棲の種については飼育下とフィールドの両面でデータロガーを積極的に活用し多次元のデータを収集しつつ研究を進めた。野外研究については、直接観察のみならず、データロガー、カメラトラップなども駆使して観察を進めた。

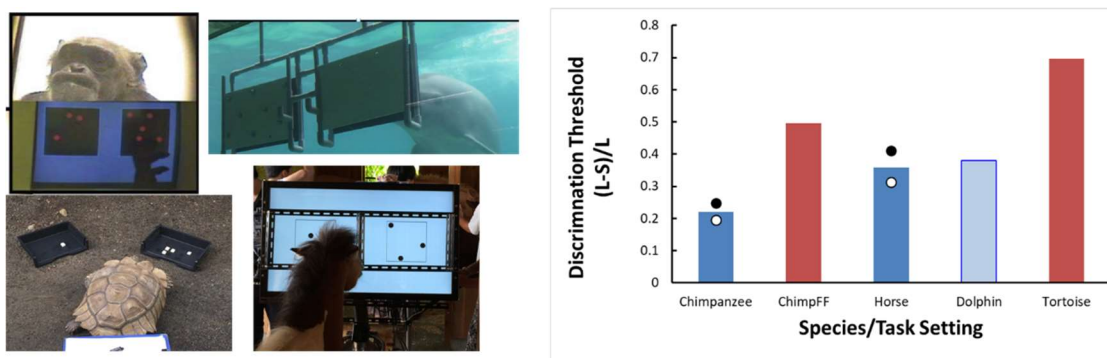
4. 研究成果

本計画は、以下に示すように物理環境の認識と社会環境の認識、飼育下研究と野外調査、という大きな区分のもと、個別の研究課題を推進してきた。以下にその成果の概略を示す。

(1) 物理的世界の認識

チンパンジー、ヒト、ウマ、ハンドウイルカなどを対象に、視知覚認知に関する実験的研究を推進した。

特に、数の認知に関しては、これらの種に加えて、比較の外群として爬虫類のリクガメでも実験を行い、個別の種ではなく、種間の比較を通じた数の認識の全体像を明らかにすることができた。これらの種では、生息環境や系統的關係にかかわらず、数の大小比較が同様のメカニズム、すなわち、比較すべき数の比を手がかりとして行われていることを明らかにした。また、リクガメでのこの種の研究は世界で初めての成果である。さらに、ハンドウイルカについてはエコロケーションによる数量の認知が可能であることをはじめて体系的に示すことができた。



図：(左) 数の大小判断実験の様子、(右) 各種における大小判断の 75% 弁別閾の比較。

また、基本的な図形の知覚に関して、先行プロジェクトに引き続きイルカ、ウマ、チンパンジー、さらにはゼニガタアザランを対象に研究を進めた。対象としたのは数の認識とも関連の深い図形の大小の弁別と幾何学図形のカテゴリ的知覚である。ここでも、生息環境や依存する感覚様相に種間で大きな隔たりがあるにもかかわらず、それぞれの種が示す図形知覚のパターンには驚くべき類似性が見いだされた。

基礎的な知覚特性を詳細に調べることで、環境認識の種間差がどのレベルで生じるのかについて、考察が可能となった。少なくとも哺乳類の視覚においては、基礎的なレベルでの知覚特性には生息環境の影響が少ない可能性が示唆された。もちろん、例えば色覚などのように、明らかに系統間で異なる属性もあるので、これを過剰に一般化することは危険であるが、認識レベルでの種差は、複数の知覚情報をどのように統合するのか、という点にあるのではないかと考えられる。研究プロジェクト内では、視覚と聴覚の統合に関する研究も進めてきたが、今後は、「情報統合としての認知」という観点からさらに体系的な種間比較を進める必要があるだろう。

今回のプロジェクトでは、上記のようにさまざまな種を対象に研究を進めた。そのなかでもこれまでの研究への参加状況や研究環境から、チンパンジーでの比較認知研究が今回の研究においても全般的に進展した。物理環境の認識に関しては、集合内に含まれる刺激の個数の「平均」の知覚、鮮度の異なるキャベツの表面の写真を用いた「鮮度」の知覚、色の恒常性、垂直-水平錯視などのさまざまな錯視現象の検討を行った。これらの研究は常にヒトを対象とした比較実験とセットで行い、現象の種間での普遍性と種間特異性を明らかにしてきた。



図：イルカにおける空間認識とヒトのパラボリックフライト

また、種に固有の環境適応の影響を調べる研究についてもハンドウイルカの空間認識を対象に検討を進めた。イルカなどの鯨類は陸生の哺乳類とは異なり、水中という 3 次元空間の中で身体を自由に定位することができる。このような「重力軸からの解放」が空間認識にどのような影響をおよぼすかについてさまざまな実験を行い検討した。その結果、彼らは基本的には自己の身体を軸をベースに空間を認識しており、環境の側にあるランドマークなどの情報をあまり利用していない可能性が示唆された。空間認識における自己視点の問題は生息環境の影響を受けやすい可能性が強い。今後は、樹上性のチンパンジーや地上性のウマなどでも空間認識に関する研究を継続して進めていきたい。また、ヒトのように重力軸の影響を強く受ける種が、その影響か

ら解放されたときにどのような知覚・認知的「適応」を示すのかを解明するため、パラボリックフライトによる微小重力環境下での認知研究を開始した。「宇宙認知科学」という枠の中で比較認知科学的視点の重要性はこれからも増していくだろう。

(2) 社会的環境の認識

社会的環境の認識については、それぞれの対象種で個別に研究を進めたが、いくつかのテーマについては、種間比較を積極的に進めた。その一つが視覚的種弁別である。ハンドウイルカを対象としたはじめての選好注視法による実験により、彼らが視覚的に種弁別を行っている可能性が示された。また、これと並行して、チンパンジー、ウマ、そしてハンドウイルカを対象に複数の写真セットを用いた視覚的な種弁別の実験を行った。その結果、それぞれの種で自種あるいは他種をカテゴリ化することが可能ではあったが、それぞれが手がかりとする特徴が異なることが明らかとなった。このことは、それぞれの種が視覚的コミュニケーションにおいて異なる手がかりを用いている可能性を強く示唆している。また、チンパンジーを対象としたゼスチャーコミュニケーションの実験や身体知覚の実験から、ヒトとチンパンジーにおける身体を介した認知の類似性と特異性が示唆された。また、ヒトやチンパンジーを対象にした感情に関する研究も積極的に進めた。特に不快表情の注意補足効果、トライポフォビア、不気味の谷などについて研究を進めた。

鯨類に関しては、鳴音によるコミュニケーションの研究が進展した。特に、鳴き交わしに用いるコンタクトコールの音のタイプがハンドウイルカのようなホイッスルだけではなく、種によって多様であることが示された。さらに、向社会的行動、協力的行動、仲直り、などこれまでは特に霊長類を対象とした研究が進んでいた領域においてハンドウイルカを対象とした研究が進展した。ハンドウイルカにおいても、これらの行動が同様の機能を持って存在することが実証された。今後は、さらなる種間比較を通して類似性と特異性をうきぼりにしていく必要があるだろう。

(3) フィールド研究その他

フィールドでの調査は、北海道沖、御蔵島、および錦江湾を中心に鯨類や鰭脚類の生態、社会、行動についての調査を実施した。3D データロガーの解析から、キタオットセイの潜水行動の詳細な解析を行った。また、知床海域に來遊するシャチの調査研究を実施し、シャチが複数個体で採餌を行い、その海域は水深400m付近が多いことを明らかにした。御蔵島では、野生ミナミハンドウイルカにおける里親行動を詳細に観察することができた。錦江湾における南ハンドウイルカの調査ではドローンを積極的に導入し、その有効性を確認することができた。また、アフリカではチンパンジー、ボノボ、ゴリラのフィールドにおいてグルーミング行動や幼児個体の社会的発達過程についての観察を行った。

一方、もう一つの重要な「フィールド」である動物園・水族館においても観察研究を実施した。ふたごのチンパンジーの社会的発達過程の縦断的観察、笑顔などの情動的コミュニケーションの発達、障害を持つチンパンジーへの発達の介助や社会への復帰過程などに着目した。また、京都市動物園では、チンパンジー、ゴリラ、テナガザル、マンドリルを対象とした系列認知に関する研究を進めた。また、アジアゾウの社会行動の縦断的観察を進めた。

(4) 研究成果のアウトリーチ

本計画では動物園や水族館との連携が必須である。そこで、研究者以外の方々を巻き込む形で積極的に研究会を実施した。特に「犬山認知行動研究会」では、心理学を含む多様な領域の研究者が集まり、多様なトピックを議論する中で、新たな問題を発見しようとする流れを作ることができた。また、「犬山鯨類鰭脚類行動シンポジウム」では海生哺乳類に興味を多様な方々を糾合し議論をすることができた。これらの研究会は毎年継続して実施しており、今後も積極的に続けていきたい。さらに、水族館関係者を積極的に生息地（知床沖、御蔵島）に招き、生の野生の個体を観察し、研究する現場に触れてもらうという試みも行った。

今回のプロジェクトのような認知や行動の研究を進めるうえで、今日、成果の「再現性の危機」がうたわれて久しい。このような批判はこのプロジェクトと無縁ではないという認識に立ち、啓発活動としてシンポジウムなどを開催するとともに、「心理学評論」誌で3回にわたって特集号を企画編集した

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計174件（うち査読付論文 114件 / うち国際共著 22件 / うちオープンアクセス 40件）

1. 著者名 Wilson D. A. Tomonaga M.	4. 巻 59
2. 論文標題 Visual discrimination of primate species based on faces in chimpanzees.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Primates	6. 最初と最後の頁 243-251
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10329-018-0649-8	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 Kano F. Moore R. Krupenye C. Hirata Call J. Tomonaga M.	4. 巻 21
2. 論文標題 Human ostensive signals do not enhance gaze following in chimpanzees but do enhance object-oriented attention.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Animal Cognition	6. 最初と最後の頁 715-728
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10071-018-1205-z	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 Gao J. Tomonaga M.	4. 巻 13
2. 論文標題 The body inversion effect in chimpanzees (Pan troglodytes).	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 PLoS ONE	6. 最初と最後の頁 e0204131
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0204131	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する
1. 著者名 Wilson D. A. Tomonaga M.	4. 巻 13
2. 論文標題 Exploring attentional bias towards threatening faces in chimpanzees using the dot probe task.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 PLoS ONE	6. 最初と最後の頁 e0207378
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0207378	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 友永雅己	4. 巻 88
2. 論文標題 野生の認知科学をめざして	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 科学	6. 最初と最後の頁 1098-1103
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 0	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yu, L., Hattori, Y., Yamamoto, S., & Tomonaga, M.	4. 巻 なし
2. 論文標題 Understanding empathy from interactional synchrony in humans and non-human primates.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 L. D. Di Paolo, F. Di Vincenzo, & F. De Petrillo (Eds.), Evolution of primate social cognition	6. 最初と最後の頁 47-58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 0	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 友永雅己	4. 巻 61
2. 論文標題 ベイズは苦いレモンの匂いがするか	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 心理学評論	6. 最初と最後の頁 137-141
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 0	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 友永雅己	4. 巻 89
2. 論文標題 「ゼロ」グラビティから考える：宇宙認知科学への展望	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 科学	6. 最初と最後の頁 180-181
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 0	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Mishima Y, Morisaka T, Mishima Y, Sunada T, Miyamoto Y	4. 巻 44
2. 論文標題 Redefinition and sexual difference of contact calls in belugas (<i>Delphinapterus leucas</i>)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Aquatic Mammals	6. 最初と最後の頁 538-554
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1578/AM.44.5.2018.538	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kelkar N, Dey S, Deshpande K, Choudhary SK, Dey S, Morisaka T	4. 巻 48
2. 論文標題 Foraging and feeding ecology of <i>Platanista</i> : an integrative review.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Mammal Review	6. 最初と最後の頁 194-208
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://doi.org/10.1111/mam.12124	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Goetsch, C., Conners, M. G., Budge, S. M., Mitani, Y., Walker, W. A., Bromaghin, J. F., Simmons, S. E., Reichmuth, C. J., Costa, D. P.	4. 巻 5
2. 論文標題 Energy-Rich Mesopelagic Fishes Revealed as a Critical Prey Resource for a Deep-Diving Predator using Quantitative Fatty Acid Signature Analysis.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Frontiers in Marine Science	6. 最初と最後の頁 1-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://doi.org/10.3389/fmars.2018.00430	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Melinda G Conners, Chandra Goetsch, Suzanne M Budge, William A Walker, Yoko Mitani, Daniel P Costa, and Scott A Shaffer.	4. 巻 5
2. 論文標題 Fisheries Exploitation by Albatross Quantified with Lipid Analysis.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Frontiers in Marine Science	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://doi:10.3389/fmars.2018.00113 .	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 米満文哉・井隼経子・山田祐樹	4. 巻 25
2. 論文標題 レジリエンスと感情処理過程の関連性-注意の瞬き課題を用いた検討-	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 感情心理学研究	6. 最初と最後の頁 58-61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://doi.org/10.4092/jsre.25.3_58	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nitta Hiroshi, Tomita Haruto, Zhang Yi, Zhou Xinxin, Yamada Yuki	4. 巻 3
2. 論文標題 Disgust and the rubber hand illusion: a registered replication report of Jalal, Krishnakumar, and Ramachandran (2015)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Cognitive Research: Principles and Implications	6. 最初と最後の頁 15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://doi.org/10.1186/s41235-018-0101-z	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 伊村知子	4. 巻 88
2. 論文標題 チンパンジーから見た質感の世界	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 科学	6. 最初と最後の頁 1134-1135
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 0	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ikeda, H., Komaba, M., Komaba, K., Matsuya, A., Kawakubo, A. & Nakahara, F.	4. 巻 13
2. 論文標題 Social object play between captive bottlenose and Risso's dolphins.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 PLoS ONE	6. 最初と最後の頁 e0196658
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://doi.org/10.1371/journal.pone.0196658	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 京都市動物園	4. 巻 66
2. 論文標題 動物園のチンパンジーがもつ生活スキルに関する調査：来歴：性別が行動に与える影響.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 動物園水族館雑誌	6. 最初と最後の頁 36-52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 0	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡部光太・田中正之	4. 巻 55
2. 論文標題 アジゾウの夜間行動の季節変化	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Animal Behaviour and Management	6. 最初と最後の頁 8-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 0	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林美里	4. 巻 29
2. 論文標題 日本の比較認知発達研究を世界に発信する：異文化のはざままで	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 発達心理学研究	6. 最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 0	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林美里	4. 巻 154
2. 論文標題 チンパンジー研究者、母になる ヒトの生後四歳六カ月から五歳までの発達	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 発達	6. 最初と最後の頁 95-102
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 0	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林美里	4. 巻 156
2. 論文標題 チンパンジー研究者、母になる ヒトの生後五歳から五歳六カ月までの発達	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 発達	6. 最初と最後の頁 94-101
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 0	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林美里	4. 巻 88
2. 論文標題 大型類人猿における物にかかわる知性の発達	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 科学	6. 最初と最後の頁 1114-1118
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 0	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Mendonça RS, Dahl CD, Carvalho S, Matsuzawa T, Adachi I.	4. 巻 6
2. 論文標題 Touch-screen-guided task reveals a prosocial choice tendency by chimpanzees (Pan troglodytes)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 PeerJ	6. 最初と最後の頁 e5315
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://doi.org/10.7717/peerj.5315	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 足立幾磨・Renata Mendonça・松沢哲郎	4. 巻 88
2. 論文標題 他者をおもいやるこころの進化	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 科学	6. 最初と最後の頁 1127-1128
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 0	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Wilson Duncan A., Tomonaga Masaki	4. 巻 in press
2. 論文標題 Visual discrimination of primate species based on faces in chimpanzees	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Primates	6. 最初と最後の頁 in press
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10329-018-0649-8	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hayashi Misato, Kawakami Fumito, Roslan Rosimah, Hapiszudin Nurhafizie M., Dharmalingam Sabapathy	4. 巻 59
2. 論文標題 Behavioral studies and veterinary management of orangutans at Bukit Merah Orang Utan Island, Perak, Malaysia	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Primates	6. 最初と最後の頁 135 ~ 144
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10329-018-0650-2	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Kelkar Nachiket, Dey Subhasis, Deshpande Kadambari, Choudhary Sunil Kumar, Dey Sushant, Morisaka Tadamichi	4. 巻 in press
2. 論文標題 Foraging and feeding ecology of Platanista: an integrative review	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Mammal Review	6. 最初と最後の頁 in press
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) doi.org/10.1111/mam.12124	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Shirai, N., Endo, S., Tanahashi, S., Seno, T., & Imura, T.	4. 巻 accepted
2. 論文標題 Development of asymmetric vection for radial expansion/contraction motion: comparison between school-age children and adults	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 i-Perception	6. 最初と最後の頁 accepted
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 郷原 皓彦、佐々木 恭志郎、山田 祐樹	4. 巻 36(2)
2. 論文標題 オノマトペから想起される自伝的記憶	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 基礎心理学研究	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) doi.org/10.14947/psychono.36.34	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐々木恭志郎・山田祐樹	4. 巻 25(1)
2. 論文標題 トライボフォビア 過去から未来へ	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 認知科学	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岩佐和典・田中恒彦・山田祐樹	4. 巻 -
2. 論文標題 日本語版嫌悪尺度 (DS-R-J) の因子構造, 信頼性, 妥当性の検討	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 心理学研究	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://doi.org/10.4992/jjpsy.89.16230	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 田中正之	4. 巻 印刷中
2. 論文標題 動物園のチンパンジーがもつ生活スキルに関する調査: 来歴・性別が行動に与える影響	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 動物園水族館雑誌	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Altschul Drew M., Wallace Emma K., Sonnweber Ruth, Tomonaga Masaki, Weiss Alexander	4. 巻 4
2. 論文標題 Chimpanzee intellect: personality, performance and motivation with touchscreen tasks	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Royal Society Open Science	6. 最初と最後の頁 170169
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) http://dx.doi.org/10.1098/rsos.170169	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Sakai Tomoko, Mikami Akichika, Suzuki Juri, Miyabe-Nishiwaki Takako, Matsui Mie, Tomonaga Masaki, Hamada Yuzuru, Matsuzawa Tetsuro, Okano Hideyuki, Oishi Kenichi	4. 巻 12
2. 論文標題 Developmental trajectory of the corpus callosum from infancy to the juvenile stage: Comparative MRI between chimpanzees and humans	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 PLOS ONE	6. 最初と最後の頁 e0179624
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) doi.org/10.1371/journal.pone.0179624	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Imura Tomoko, Kawakami Fumito, Shirai Nobu, Tomonaga Masaki	4. 巻 284
2. 論文標題 Perception of the average size of multiple objects in chimpanzees (Pan troglodytes)	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Proceedings of the Royal Society Series B	6. 最初と最後の頁 20170564
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) dx.doi.org/10.1098/rspb.2017.0564	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Gao Jie, Su Yanjie, Tomonaga Masaki, Matsuzawa Tetsuro	4. 巻 59 (1)
2. 論文標題 Learning the rules of the rock paper scissors game: chimpanzees versus children	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Primates	6. 最初と最後の頁 7-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10329-017-0620-0	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Bard Kim A., Maguire-Herring Vanessa, Tomonaga Masaki, Matsuzawa Tetsuro	4. 巻 in press
2. 論文標題 The gesture 'Touch': Does meaning-making develop in chimpanzees' use of a very flexible gesture?	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Animal Cognition	6. 最初と最後の頁 in press
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10071-017-1136-0	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Tatsumoto Shoji, Go Yasuhiro, Fukuta Kentaro, Noguchi Hideki, Hayakawa Takashi, Tomonaga Masaki, Hirai Hirohisa, Matsuzawa Tetsuro, Agata Kiyokazu, Fujiyama Asao	4. 巻 7
2. 論文標題 Direct estimation of de novo mutation rates in a chimpanzee parent-offspring trio by ultra-deep whole genome sequencing	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 13561
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-017-13919-7	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Gonseth Chloe, Kawakami Fumito, Ichino Etsuko, Tomonaga Masaki	4. 巻 13
2. 論文標題 The higher the farther: distance-specific referential gestures in chimpanzees (Pan troglodytes)	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Biology Letters	6. 最初と最後の頁 20170398
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1098/rsbl.2017.0398	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tsutaya T, Fujimori Y, Hayashi M, Yoneda M, Miyabe-Nishiwaki T	4. 巻 31
2. 論文標題 Carbon and nitrogen stable isotopic offsets between diet and hair/feces in captive chimpanzees	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Rapid Communications in Mass Spectrometry	6. 最初と最後の頁 59-67
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tsuji K, Kogi K, Sakai M, Morisaka T	4. 巻 43
2. 論文標題 Emigration of Indo-Pacific bottlenose dolphins (<i>Tursiops aduncus</i>) from Mikura Island, Japan	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Aquatic Mammals	6. 最初と最後の頁 585-593
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Inada Y, Tamiya N, Miyake M, Morisaka T, Sakai M, Wakabayashi I, Kasamatsu M, Uekusa Y	4. 巻 12
2. 論文標題 Fluid dynamic effects of small projections based on dorsal ridge tubercles of the finless porpoise	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Journal of Biomechanical Science and Engineering	6. 最初と最後の頁 16-00700
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三宅真亜子, 奈良祥太郎, 稲田喜信, 高橋俊, 酒井麻衣, 森阪匡通	4. 巻 65
2. 論文標題 並走する流線型物体の間に働く流体力学的効果の分析	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本航空宇宙学会論文集	6. 最初と最後の頁 27-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 北夕紀, 村山美穂, 小木万布, 森阪匡通, 酒井麻衣, 椎名隆	4. 巻 25
2. 論文標題 御蔵島に生息するミナミハンドウイルカ (<i>Tursiops aduncus</i>)の親子鑑定	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 DNA多型	6. 最初と最後の頁 52-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yamada, Y., & Sasaki, K.	4. 巻 10
2. 論文標題 Involuntary protection against dermatosis: A preliminary observation on tryphobia	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 BMC Research Notes	6. 最初と最後の頁 658
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sasaki, K., Ihaya, K., & Yamada, Y.	4. 巻 8
2. 論文標題 Avoidance of novelty contributes to the uncanny valley	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Frontiers in Psychology	6. 最初と最後の頁 1792
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yonemitsu Fumiya, Sung Yubin, Naka Kyoko, Yamada Yuki, Marmolejo-Ramos Fernando	4. 巻 10
2. 論文標題 Does weight lifting improve visual acuity? A replication of Gonzalo-Fonrodona and Porras (2013)	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 BMC Research Notes	6. 最初と最後の頁 362
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s13104-017-2699-1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大竹裕香・奥村優子・郷原皓彦・中響子・米満文哉・佐々木恭志郎・渡邊直美・藤田早苗・服部正嗣・山田祐樹・小林哲生	4. 巻 59(3)
2. 論文標題 絵本検索システムを用いた図書館における親子の絵本読み支援の試み	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 読書科学	6. 最初と最後の頁 134-148
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sasaki, K., & Yamada, Y.	4. 巻 8(5)
2. 論文標題 Regular is longer	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 i-Perception	6. 最初と最後の頁 1-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中響子・米満文哉・山田祐樹	4. 巻 36
2. 論文標題 顔の魅力判断とジェンダー環境 -女子大学と共学大学での比較-	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 基礎心理学研究	6. 最初と最後の頁 50-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sasaki, K., Yamada, Y., Kuroki, D., & Miura, K.	4. 巻 13
2. 論文標題 Trypophobic discomfort is spatial-frequency dependent	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Advances in Cognitive Psychology	6. 最初と最後の頁 224-231
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 薛玉テイ・郷原皓彦・佐々木恭志郎・山田祐樹	4. 巻 24(3)
2. 論文標題 粘性オノマトペは視覚的嫌悪感を変容させる 「べとべと」と「さらさら」を用いた検討	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 認知科学	6. 最初と最後の頁 360-375
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Okazaki, Y. S., Asakawa, A., Ishii, K., & Yamada, Y.	4. 巻 3
2. 論文標題 The stuffed animal sleepover: Enhancement of reading activity and the duration of effect	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Heliyon	6. 最初と最後の頁 e00252
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 清水邦義・吉村友里・中川敏法・松本清・鷲岡ゆき・羽賀栄理子・本傳晃義・中島大輔・西條裕美・藤田弘毅・渡邊雄一郎・岡本元一・井上伸史・安成信次・永野純・山田祐樹・岡本剛・大貫宏一郎・石川洋哉・藤本登留	4. 巻 63(3)
2. 論文標題 スギ材を内装材として使用した室内空間における揮発性成分の分析およびその季節変動	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 木材学会誌	6. 最初と最後の頁 126-130
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kawabe, T., Sasaki, K., Ihaya, K., & Yamada, Y.	4. 巻 161
2. 論文標題 When categorization-based stranger avoidance explains the uncanny valley: A comment on MacDorman and Chattopadhyay	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Cognition	6. 最初と最後の頁 129-131
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中原史生	4. 巻 66
2. 論文標題 イルカ音響タッチパネルの開発と音響および認知研究への活用	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 勇魚	6. 最初と最後の頁 25-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nakahara Fumio, Komaba Masayuki, Sato Ryoichi, Ikeda Hisako, Komaba Kumiko, Kawakubo Akihiro	4. 巻 135
2. 論文標題 Spontaneous prosocial choice by captive bottlenose dolphins, <i>Tursiops truncatus</i>	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Behavioural Processes	6. 最初と最後の頁 8-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.beproc.2016.11.009	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Otsuki Mayuko, Akamatsu Tomonari, Nobetsu Takahiro, Mizuguchi Daisuke, Mitani Yoko	4. 巻 41
2. 論文標題 Diel changes in ribbon seal <i>Histiophoca fasciata</i> vocalizations during sea ice presence in the Nemuro Strait, Sea of Okhotsk	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Polar Biology	6. 最初と最後の頁 451-456
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) doi.org/10.1007/s00300-017-2203-3	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Takuya Nakanowatari, Kay I. Ohshima, Vigan Mensah, Yoko Mitani, Kaoru Hattori, Mari Kobayashi, Fabien Roquet, Yasunori Sakurai, Humio Mitsudera, Masaaki Wakatsuchi	4. 巻 13
2. 論文標題 Hydrographic observations by instrumented marine mammals in the Sea of Okhotsk	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Polar Science	6. 最初と最後の頁 56-65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Yasuhiko Naito, Daniel P. Costa, Taiki Adachi, Patrick W. Robinson, Sarah H. Peterson, Yoko Mitani, Akinori Takahashi	4. 巻 7(16)
2. 論文標題 Oxygen minimum zone: a key oceanographic habitat for deep-diving northern elephant seals, <i>Mirounga angustirostris</i>	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Ecology and Evolution	6. 最初と最後の頁 6259-6270
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tabitha Hui, Yuka Morita, Yumi Kobayashi, Yoko Mitani, Kazushi Miyashita	4. 巻 38(3)
2. 論文標題 Dietary analysis of harbour seals (<i>Phoca vitulina</i>) from faecal samples and overlap with fisheries in Erimo, Japan	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Marine Ecology	6. 最初と最後の頁 e12431
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Daisuke Saijo, Yoko Mitani, Takuzo Abe, Hiroko Sasaki, Chandra Goetsch, Daniel P. Costa, Kazushi Miyashita	4. 巻 140
2. 論文標題 Linking mesopelagic prey abundance and distribution to the foraging behavior of a deep-diving predator, the northern elephant seal	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Deep-Sea Research Part II	6. 最初と最後の頁 163-170
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Takanori Horimoto, Yoko Mitani, Mari Kobayashi, Kaoru Hattori, Yasunori Sakurai	4. 巻 42
2. 論文標題 Seasonal and spatial occurrence of northern fur seals <i>Callorhinus ursinus</i> around northern Japan	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Mammal Study	6. 最初と最後の頁 51-56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡部光太・田中正之	4. 巻 58(4)
2. 論文標題 闘争が見られたレッサーパンダペアの繁殖期の行動経年変化	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 動物園水族館雑誌	6. 最初と最後の頁 69-77
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Adachi I, Tomonaga M	4. 巻 -
2. 論文標題 Face Perception and Processing in Non-human Primates	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 APA Handbook of Comparative Psychology	6. 最初と最後の頁 141-161
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高潔・友永雅己・松沢哲郎 (翻訳: 川口ゆり)	4. 巻 87
2. 論文標題 チンパンジーとヒトのじゃんけんの学習 (ちびっこチンパンジーと仲間たち (第183回))	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 科学	6. 最初と最後の頁 244-245
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林美里・熊崎清則・松沢哲郎・友永雅己	4. 巻 87
2. 論文標題 ブチの最期 - チンパンジーの脳死 (ちびっこチンパンジーと仲間たち (第187回))	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 科学	6. 最初と最後の頁 640-641
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 友永雅己	4. 巻 87
2. 論文標題 霊長類研究所50周年 過去、現在、そして未来 (ちびっこチンパンジーと仲間たち (第188回))	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 科学	6. 最初と最後の頁 722-723
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊村知子・友永雅己	4. 巻 87
2. 論文標題 チンパンジーは、平均の大きさがわかるか？（ちびっこチンパンジーと仲間たち（第191回））	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 科学	6. 最初と最後の頁 1002-1003
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三浦麻子・友永雅己	4. 巻 77
2. 論文標題 来た、見た、買った 馬の中にウマを見出す	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 心理学ワールド	6. 最初と最後の頁 40
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松井大・友永雅己	4. 巻 79
2. 論文標題 この人をたずねて：友永雅己氏	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 心理学ワールド	6. 最初と最後の頁 34-35
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 友永雅己	4. 巻 2
2. 論文標題 巻頭言	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 モンキー	6. 最初と最後の頁 25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tomonaga Masaki	4. 巻 -
2. 論文標題 Inverted Face with Upright Body: Evidence for Face Inversion Effect in Japanese Macaques (<i>Macaca fuscata</i>) under the Preferential Looking Procedure	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 bioRxiv	6. 最初と最後の頁 266676
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1101/266676	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tomonaga Masaki	4. 巻 -
2. 論文標題 Familiarity and Face-Inversion Effect in Japanese Macaques (<i>Macaca fuscata</i>) during the Preferential Looking Task	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 bioRxiv	6. 最初と最後の頁 267716
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1101/267716	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kim Yena, Choe Jae Chun, Jeong Gilsang, Kim Dongsun, Tomonaga Masaki	4. 巻 -
2. 論文標題 Chimpanzees but not orangutans display aversive reactions toward their partner receiving a superior reward	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 bioRxiv	6. 最初と最後の頁 274803
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1101/274803	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yu Lira, Tomonaga Masaki	4. 巻 -
2. 論文標題 Effect of visual cues in addition to moderate auditory cues on temporal coordination: A comparative study in humans and chimpanzees	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 bioRxiv	6. 最初と最後の頁 290379
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1101/290379	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hayashi Misato, Matsuzawa Tetsuro	4. 巻 48
2. 論文標題 Mother-infant interactions in captive and wild chimpanzees	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Infant Behavior and Development	6. 最初と最後の頁 20-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.infbeh.2016.11.008	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林美里	4. 巻 150
2. 論文標題 チンパンジー研究者、母になる ヒトの生後三歳六カ月から四歳までの発達	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 発達	6. 最初と最後の頁 100-107
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林美里	4. 巻 2
2. 論文標題 オランウータンがくらす島 (大型類人猿探訪 第5回)	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 モンキー	6. 最初と最後の頁 8-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林美里	4. 巻 43
2. 論文標題 霊長類における愛着研究	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 精神療法	6. 最初と最後の頁 66-68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林美里	4. 巻 2
2. 論文標題 チンパンジーの「死」 (大型類人猿探訪 第6回)	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 モンキー	6. 最初と最後の頁 32-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林美里	4. 巻 152
2. 論文標題 チンパンジー研究者、母になる ヒトの生後四歳から四歳六カ月までの発達	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 発達	6. 最初と最後の頁 93-100
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林美里	4. 巻 2
2. 論文標題 ボノボをたずねて三千里 (大型類人猿探訪 第7回)	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 モンキー	6. 最初と最後の頁 56-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林美里	4. 巻 2
2. 論文標題 親子のなりたち：前編 (大型類人猿探訪 第8回)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 モンキー	6. 最初と最後の頁 80-81
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Wilson, D. A., Tomonaga, M., & Vick, S.-J.	4. 巻 57
2. 論文標題 Eye preferences in capuchin monkeys (<i>Sapajus apella</i>)	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Primates	6. 最初と最後の頁 433-440
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10329-016-0537-z	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Sakuraba, Y., Tomonaga, M., & Hayashi, M.	4. 巻 57
2. 論文標題 A new method of walking rehabilitation using cognitive tasks in an adult chimpanzee (<i>Pan troglodytes</i>) with a disability: a case study	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Primates	6. 最初と最後の頁 403-412
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10329-016-0541-3	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Imura, T., Masuda, T., Wada, Y., Tomonaga, M., & Okajima, K.	4. 巻 6
2. 論文標題 Chimpanzees can visually perceive differences in the freshness of foods	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 34685
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/srep34685	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kret, M., & Tomonaga, M.	4. 巻 11
2. 論文標題 Getting to the bottom of face processing: Species-specific inversion effects for faces and behinds in humans and chimpanzees (<i>Pan troglodytes</i>)	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 PLoS One	6. 最初と最後の頁 e0165357
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0165357	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Matsuno, T., & Tomonaga, M.	4. 巻 158
2. 論文標題 Causal capture effects in chimpanzees (Pan troglodytes)	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Cognition	6. 最初と最後の頁 153-164
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Okamoto, M., Naito, M., Imai, S., Miyanohara, M., Nomura, Y., Saito, W., Momoi, Y., Takeda, K., Miyabe-Nishiwaki, T., Tomonaga, M., & Hanada, N.	4. 巻 in press
2. 論文標題 Complete genome sequence of Streptococcus troglodytae TKU31 isolated from an oral cavity of chimpanzee (Pan troglodytes)	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Microbiology and Immunology	6. 最初と最後の頁 in press
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/1348-0421.12453	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kawakami, F., Tomonaga, M., & Suzuki, J.	4. 巻 58
2. 論文標題 The first smile: Spontaneous smiles in newborn Japanese macaques (Macaca fuscata)	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Primates	6. 最初と最後の頁 93-101
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10329-016-0558-7	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山梨祐美・小倉匡俊・森村成樹・林美里・友永雅己	4. 巻 52
2. 論文標題 チンパンジーの人工保育とエンターテイメント：動物福祉・保全と将来展望	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Animal Behaviour and Management	6. 最初と最後の頁 73-84
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 友永雅己	4. 巻 86
2. 論文標題 ウマの目からの眺め（ちびっこチンパンジーと仲間たち（第170回））	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 科学	6. 最初と最後の頁 164-165
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 友永雅己・三浦麻子・針生悦子	4. 巻 59
2. 論文標題 巻頭言：心理学の再現可能性：我々はどこから来たのか 我々は何者か 我々はどこへ行くのか 特集 号の刊行に寄せて	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 心理学評論	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林美里・友永雅己	4. 巻 78
2. 論文標題 チンパンジーとヒトの比較から見たアロマザリング	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 発達心理学ニューズレター	6. 最初と最後の頁 10-11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川上文人・平栗明実・市野悦子・林美里・友永雅己	4. 巻 86
2. 論文標題 チンパンジーの核家族の子育て：最初の2年間の記録（ちびっこチンパンジーと仲間たち（第177回））	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 科学	6. 最初と最後の頁 882-883
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川上文人・友永雅己	4. 巻 86
2. 論文標題 二ホンザルの赤ちゃんの自発的微笑。(ちびっこチンパンジーと仲間たち(第178回))	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 科学	6. 最初と最後の頁 1006-1007
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 ユリラ・友永雅己	4. 巻 86
2. 論文標題 なぜリズムが「合う」のか? 人とチンパンジーの比較から(ちびっこチンパンジーと仲間たち(第179回))	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 科学	6. 最初と最後の頁 1134-1135
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 友永雅己	4. 巻 1
2. 論文標題 チンパンジー、イルカ、そしてウマから見た世界	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 モンキー	6. 最初と最後の頁 28-29
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 友永雅己	4. 巻 19(4)
2. 論文標題 森のこころ, 海のこころ, 草原のこころ - 比較認知科学「こころの進化」を探る旅	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 脳21	6. 最初と最後の頁 99-102
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高潔・友永雅己・松沢哲郎（翻訳：川口ゆり）	4. 巻 87
2. 論文標題 チンパンジーとヒトのじゃんけんの学習（ちびっこチンパンジーと仲間たち（第183回））	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 科学	6. 最初と最後の頁 244-245
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三宅真亜子、奈良祥太郎、稲田喜信、高橋俊、酒井麻衣、森阪匡通	4. 巻 65
2. 論文標題 並走する流線型物体の間に働く流体力学的効果の分析	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本航空宇宙学会論文集	6. 最初と最後の頁 27-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.2322/jjsass.65.27	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Yoshinobu INADA; Naoki TAMIYA; Maako MIYAKE; Tadamichi MORISAKA; Mai SAKAI; Ikuo WAKABAYASHI; Masahiko KASAMATSU; Yasuhiro UEKUSA	4. 巻 印刷中
2. 論文標題 Fluid dynamic effects of small projections based on dorsal ridge tubercles of the finless porpoise	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Journal of Biomechanical Science and Engineering	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1299/jbse.16-00700	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Imura, T., Masuda, T., Wada, Y., Tomonaga, M., & Okajima, K.	4. 巻 6
2. 論文標題 Chimpanzees can visually perceive differences in the freshness of foods	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 34685
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1038/srep34685	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Shirai, N., & Imura, T.	4. 巻 6
2. 論文標題 Infant-specific gaze patterns in response to radial optic flow	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 34734
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/srep34734	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Shirai, N., & Imura, T.	4. 巻 6
2. 論文標題 Emergence of the ability to perceive dynamic events from still pictures in human infants	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 37206
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/srep37206	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nakahara, F., Komaba, M., Sato, R., Ikeda, H., Komaba, K. & Kawakubo, A.	4. 巻 135
2. 論文標題 Spontaneous prosocial choice by captive bottlenose dolphins	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Tursiops truncatus. Behavioural Processes	6. 最初と最後の頁 8-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.beproc.2016.11.009	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮本春奈・岩原由佳・幅祥太・中原史生・大泉宏・斎野重夫・山本友紀子・吉岡基・三谷曜子	4. 巻 39
2. 論文標題 北海道東部海域におけるシャチの分布と生息環境	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 知床博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 37-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Daisuke Saijo; Yoko Mitani; Takuzo Abe; Hiroko Sasaki; Chandra Goetsch; Daniel P Costa; Kazushi Miyashita	4. 巻 in press
2. 論文標題 Linking mesopelagic prey abundance and distribution to the foraging behavior of a deep-diving predator, the northern elephant seal	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Deep-Sea Research Part II	6. 最初と最後の頁 in press
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) http://doi.org/10.1016/j.dsr2.2016.11.007	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Sachiko Suzuki, Keiko Sekiguchi, Yoko Mitani, Hiroji Onishi, Takehiko Kamito	4. 巻 33(5)
2. 論文標題 Distribution of Dall's porpoise, <i>Phocoenoides dalli</i> , in the North Pacific and Bering Sea, based on T/S Oshoro Maru 2012 summer cruise data	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Zoological Science	6. 最初と最後の頁 491-496
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) http://dx.doi.org/10.2108/zs150141	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Iwahara, Y., Fujiwara, A., Ito, K., Miyashita, K., Mitani, Y.	4. 巻 10(2)
2. 論文標題 Gray whale sightings in the Canadian Beaufort Sea, September 2014	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Polar Science	6. 最初と最後の頁 173-176
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.polar.2016.04.007	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 宮本春奈・岩原由佳・幅祥太・中原史生・大泉宏・斎野重夫・山本友紀子・吉岡基・三谷曜子	4. 巻 39
2. 論文標題 北海道東部海域におけるシャチの分布と生息環境	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 知床博物館研究報告Bulletin of the Shiretoko Museum	6. 最初と最後の頁 37-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 南川真吾, 村瀬弘人, 三谷曜子	4. 巻 38(4)
2. 論文標題 海棲哺乳類の保全・管理のための調査・解析手法(3)バイオテレメトリ・バイオロギング	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 海洋と生物	6. 最初と最後の頁 425-434
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hayashi M, Matsuzawa T	4. 巻 印刷中
2. 論文標題 Mother-infant interactions in captive and wild chimpanzees	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Infant Behavior and Development	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.infbeh.2016.11.008	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Mendonç¸a RS, Takeshita RSC, Kanamori T, Kuze N, Hayashi M, Kinoshita K, Bernard H, Matsuzawa T	4. 巻 8
2. 論文標題 Behavioral and physiological changes in a juvenile Bornean orangutan after a wildlife rescue	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Global Ecology and Conservation	6. 最初と最後の頁 116-122
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.gecco.2016.08.004	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Mendonç¸a R, Kanamori T, Kuze N, Hayashi M, Bernard H, Matsuzawa T	4. 巻 58
2. 論文標題 Development and behavior of wild infant-juvenile East Bornean orangutans (Pongo pygmaeus morio) in Danum Valley	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Primates	6. 最初と最後の頁 211-224
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10329-016-0567-6	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Toda K, Ryu H, Hayashi M, Furuichi T	4. 巻 23
2. 論文標題 An infant bonobo mimicked a handicapped motor action of a disabled individual at Wamba in the Luo Scientific Reserve, Democratic Republic of Congo	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Pan Africa News	6. 最初と最後の頁 3-5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林美里	4. 巻 66
2. 論文標題 大型類人猿の母子の絆：チンパンジーとオランウータンにおける母子関係と認知発達	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 動物心理学研究	6. 最初と最後の頁 29-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林美里	4. 巻 146
2. 論文標題 チンパンジー研究者、母になる ヒトの生後二歳六カ月から三歳までの発達	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 発達	6. 最初と最後の頁 103-110
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林美里・友永雅己	4. 巻 78
2. 論文標題 チンパンジーとヒトの比較から見たアロマザリング	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 日本発達心理学会ニューズレター	6. 最初と最後の頁 10-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林美里	4. 巻 1
2. 論文標題 チンパンジーに魅せられて (「大型類人猿探訪」第1回)	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 モンキー：霊長類学からワイルドライフサイエンスへ	6. 最初と最後の頁 6-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林美里	4. 巻 86
2. 論文標題 チンパンジー・レオの10年	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 科学	6. 最初と最後の頁 776-777
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林美里	4. 巻 秋号
2. 論文標題 チンパンジーからみたヒトの発達と家族	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 生活科・総合通信 そよかぜ通信	6. 最初と最後の頁 4-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林美里	4. 巻 1
2. 論文標題 野生チンパンジーのすむアフリカへ (「大型類人猿探訪」第2回)	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 モンキー：霊長類学からワイルドライフサイエンスへ	6. 最初と最後の頁 32-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林美里	4. 巻 148
2. 論文標題 チンパンジー研究者、母になる ヒトの生後三歳から三歳六カ月までの発達	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 発達	6. 最初と最後の頁 91-98
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林美里	4. 巻 1
2. 論文標題 チンパンジーの心を読む (「大型類人猿探訪」第3回)	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 モンキー：霊長類学からワイルドライフサイエンスへ	6. 最初と最後の頁 56-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林美里	4. 巻 1
2. 論文標題 アジアにくらすオランウータン (「大型類人猿探訪」第4回)	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 モンキー：霊長類学からワイルドライフサイエンスへ	6. 最初と最後の頁 80-81
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川上文人・平栗明実・市野悦子・林美里・友永雅己	4. 巻 86
2. 論文標題 チンパンジーの核家族の子育て：最初の2年間の記録	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 科学	6. 最初と最後の頁 882-883
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 塩田幸弘, 八代田真人, 河村あゆみ, 田中正之	4. 巻 88(1)
2. 論文標題 動物園で給餌している樹葉の重量推定と栄養含量の季節変化	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本畜産学会報	6. 最初と最後の頁 9-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡部光太, 田中正之	4. 巻 印刷中
2. 論文標題 闘争が見られたレッサーパンダのペアの繁殖期の行動経年変化	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 動物園水族館雑誌	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉田信明, 田中正之, 和田晴太郎	4. 巻 3(1)
2. 論文標題 動物園における教育プログラムのための動物行動観察支援システム	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 情報処理学会論文誌: 教育とコンピュータ	6. 最初と最後の頁 36-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yamanashi Y, Matsunaga M, Shimada K, Kado R, Tanaka M	4. 巻 4(3)
2. 論文標題 Introducing tool-based feeders to zoo-housed chimpanzees as a cognitive challenge: spontaneous acquisition of new types of tool use and effects on behaviours and use of space	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Journal of Zoo and Aquarium Research	6. 最初と最後の頁 1-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.19227/jzar.v4i3.235	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中正之	4. 巻 66(1)
2. 論文標題 動物園動物のこころをさぐる	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 動物心理学研究	6. 最初と最後の頁 53-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) http://doi.org/10.2502/janip.66.1.8	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中正之	4. 巻 07(6)
2. 論文標題 生まれ変わった動物園 - 京都市動物園での研究と教育 -	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 NU7	6. 最初と最後の頁 3-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 足立幾磨	4. 巻 73
2. 論文標題 チンパンジーのこころの左右	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 心理学ワールド	6. 最初と最後の頁 23-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Okazaki, Y. S., Asakawa, A., Ishii, K., & Yamada, Y.	4. 巻 3
2. 論文標題 The stuffed animal sleepover: Enhancement of reading activity and the duration of effect	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Heliyon	6. 最初と最後の頁 e00252
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 清水邦義・吉村友里・中川敏法・松本清・鷲岡ゆき・羽賀栄理子・本傳見義・中島大輔・西條裕美・藤田弘毅・渡邊雄一郎・岡本元一・井上伸史・安成信次・永野純・山田祐樹・岡本剛・大貫宏一郎・石川洋哉・藤本登留	4. 巻 印刷中
2. 論文標題 スギ材を内装材として使用した室内空間における揮発性成分の分析およびその季節変動	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 木材学会誌	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nitta, H., Tomita, H., Zhang, Y., Zhou, X., & Yamada, Y.	4. 巻 in press
2. 論文標題 Disgust and the rubber hand illusion: A registered replication report of Jalal, Krishnakumar, and Ramachandran	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Cognitive Research: Principles and Implications	6. 最初と最後の頁 in press
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kawabe, T., Sasaki, K., Ihaya, K., & Yamada, Y.	4. 巻 161
2. 論文標題 When categorization-based stranger avoidance explains the uncanny valley: A comment on MacDorman and Chattopadhyay	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Cognition	6. 最初と最後の頁 129-131
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Gobara, A., Yamada, Y., & Miura, K.	4. 巻 7
2. 論文標題 Crossmodal modulation of spatial localization by mimetic words	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 i-Perception	6. 最初と最後の頁 1-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Iwasa, K., Tanaka, T., & Yamada, Y.	4. 巻 11(10)
2. 論文標題 Factor structure, reliability, and validity of the Japanese version of the Disgust Propensity and Sensitivity Scale-Revised	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 PLOS ONE	6. 最初と最後の頁 e0164630
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ariga, A., Yamada, Y., & Yamani, Y.	4. 巻 7
2. 論文標題 Early visual perception potentiated by object affordances: Evidence from a temporal order judgment task	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 i-Perception	6. 最初と最後の頁 1-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Marmolejo-Ramos, F., Correa, J. C., Sakarkar, G., Ngo, G., Ruiz-Fernández, S., Butcher, N., & Yamada, Y.	4. 巻 in press
2. 論文標題 Placing joy, surprise and sadness in space: A cross-linguistic study	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Psychological Research	6. 最初と最後の頁 in press
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大竹裕香・郷原皓彦・中響子・米満文哉・佐々木恭志郎・奥村優子・渡邊直美・藤田早苗・服部正嗣・山田祐樹・小林哲生	4. 巻 116(436)
2. 論文標題 絵本検索システム「びたりえ」を用いた絵本探し支援の効果	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 信学技報	6. 最初と最後の頁 109-114
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐々木恭志郎・山田祐樹	4. 巻 116(377)
2. 論文標題 クラウドソーシングによる知覚研究 コントラスト感度測定の場合	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 信学技報	6. 最初と最後の頁 53-56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yu, L., & Tomonaga, M.	4. 巻 5
2. 論文標題 Interactional synchrony in chimpanzees: Examination through a finger-tapping experiment.	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 10218
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) DOI: 10.1038/srep10218	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tomonaga, M., & Imura, T.	4. 巻 6
2. 論文標題 CHANGE they can't find: Change blindness in chimpanzees during a visual search task.	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 i-Perception	6. 最初と最後の頁 104-107
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1068/i0708sas	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tomonaga, M., & Imura, T.	4. 巻 5
2. 論文標題 Efficient search for a face by chimpanzees.	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 11437
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/srep11437	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hattori, Y., Tomonaga, M., & Matsuzawa, T.	4. 巻 10
2. 論文標題 Distractor effect of auditory rhythms on self-paced tapping in chimpanzees and humans.	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 PLoS One	6. 最初と最後の頁 e0130862
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0130682	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tomonaga, M., Uwano, Y., Ogura, S., Chin, H., Dozaki, M., & Saito, T.	4. 巻 4
2. 論文標題 Which person is my trainer? Spontaneous visual discrimination of human individuals by bottlenose dolphins (<i>Tursiops truncatus</i>).	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 SpringerPlus	6. 最初と最後の頁 352
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s40064-015-1147-8	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tomonaga, M., Kumazaki, K., Camus, F., Nicod, S., Pereira, C., Matsuzawa, T.	4. 巻 11
2. 論文標題 A horse's eye view: Size and shape discrimination compared with other mammals.	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 Biology Letters	6. 最初と最後の頁 20150701
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1098/rsbl.2015.0701	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Tomonaga, M.	4. 巻 6(6)
2. 論文標題 Fat face illusion, or Jastrow illusion with faces, in humans but not in chimpanzees.	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 i-Perception	6. 最初と最後の頁 1-5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/2041669515622090	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yu, L., & Tomonaga, M.	4. 巻 57
2. 論文標題 Unidirectional adaptation in tempo in pairs of chimpanzees during simultaneous tapping movement: An examination under face-to-face setup.	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Primates	6. 最初と最後の頁 181-185
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10329-016-0512-8	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Imura, T., Masuda, T., Shirai, N., & Wada, Y.	4. 巻 6
2. 論文標題 Eleven-month-old infants infer differences in the hardness of object surfaces from observation of penetration events.	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 Frontiers in Psychology: Developmental Psychology,	6. 最初と最後の頁 1005
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fpsyg.2015.01005	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nishimura, T., Mori, F., Hanida, S., Kumahata, K., Ishikawa, S., Samarat, K., Miyabe-Nishiwaki, T., Hayashi, M., Tomonaga, M., Suzuki, J., Matsuzawa, T., Matsuzawa, T.	4. 巻 12
2. 論文標題 Impaired air conditioning within the nasal cavity in flat-faced Homo.	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 PLoS Computational Biology	6. 最初と最後の頁 e1004807
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pcbi.1004807	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hayashi, M.	4. 巻 370
2. 論文標題 Perspectives on object manipulation and action grammar for percussive actions in primates.	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 Philosophical Transactions of the Royal Society B,	6. 最初と最後の頁 20140350
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1098/rstb.2014.0350	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yamanashi, Y., Teramoto, M., Morimura, N., Hirata, S., Suzuki, J., Hayashi, M., Kinoshita, K., Murayama, M., Idani, G.	4. 巻 3
2. 論文標題 Analysis of hair cortisol levels in captive chimpanzees: effect of various methods on cortisol stability and variability.	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 MethodsX	6. 最初と最後の頁 110-117
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.mex.2016.01.004	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sakai M, Kita YF, Kogi K, Shinohara M, Morisaka T, Shiina T, Inoue-Murayama M	4. 巻 6
2. 論文標題 A wild Indo-Pacific bottlenose dolphin adopts a socially and genetically distant neonate.	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 23902
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/srep23902	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Mishima Y, Morisaka T, Itoh M, Matsuo I, Sakaguchi A, Miyamoto Y	4. 巻 1
2. 論文標題 Individuality embedded in the isolation calls of captive beluga whales (<i>Delphinapterus leucas</i>).	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 Zoological Letters	6. 最初と最後の頁 27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s40851-015-0028-x	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yamamoto C, Morisaka T, Furuta K, Ishibashi T, Yoshida A, Taki M, Mori Y, Amano M	4. 巻 5
2. 論文標題 Post-conflict affiliation as conflict management in captive bottlenose dolphins (<i>Tursiops truncatus</i>)	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 14275
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/srep14275	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Koki Tsujii, Mayuko Otsuki, Tomonari Akamatsu, Ikuo Matsuo, Kazuo Amakasu, Minoru Kitamura, Takashi Kikuchi, Kazushi Miyashita, Yoko Mitani.	4. 巻 published online
2. 論文標題 The migration of fin whales into the southern Chukchi Sea as monitored with passive acoustics.	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 ICES Journal of Marine Science	6. 最初と最後の頁 in press
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/icesjms/fsv271	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Daisuke Mizuguchi, Yoko Mitani, and Shiro Kohshima.	4. 巻 published online
2. 論文標題 Geographically specific underwater vocalizations of ribbon seals (<i>Histiophoca fasciata</i>) in the Okhotsk Sea suggest a discrete population.	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Marine Mammal Science	6. 最初と最後の頁 in press
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/mms.12301	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Takanori Horiomto, Yoko Mitani, Yasunori Sakurai.	4. 巻 25
2. 論文標題 Spatial association between northern fur seal (<i>Callorhinus ursinus</i>) and potential prey distribution during wintering period in the northern Sea of Japan.	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Fisheries Oceanography	6. 最初と最後の頁 44-53
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/fog.12133	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tsubasa Nakano, Kohei Matsuno, Bungo Nishizawa, Yuka Iwahara, Yoko Mitani, Jun Yamamoto, Yasunori Sakurai, Yutaka Watanuki.	4. 巻 published online
2. 論文標題 Diets and body condition of polar cod (<i>Boreogadus saida</i>) in the northern Bering Sea and Chukchi Sea	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Polar Biology	6. 最初と最後の頁 in prss
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s00300-015-1769-x	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Chaya, K., Xue, Y., Uto, Y., Yao, Q., & Yamada, Y.	4. 巻 4
2. 論文標題 Fear of eyes: Triadic relation among social anxiety, tryphobia, and discomfort for eye cluster.	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 PeerJ	6. 最初と最後の頁 e1942
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Kishimoto, R., Sasaki, K., Gobara, A., Ojiro, Y., Nam, G., Miura, K., & Yamada, Y.	4. 巻 7
2. 論文標題 When a silhouette appears male: Observer's own physical fitness governs social categorization of sexually ambiguous stimuli.	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Letters on Evolutionary Behavioral Science	6. 最初と最後の頁 17-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山田祐樹	4. 巻 59
2. 論文標題 認知心理学における再現可能性の認知心理学	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 心理学評論	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yamani, Y., Ariga, A., & Yamada, Y.	4. 巻 9
2. 論文標題 Object affordances potentiate responses but do not guide attentional prioritization in a visual search task.	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Frontiers in Integrative Neuroscience	6. 最初と最後の頁 74
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fnint.2015.00074	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sasaki, K., Yamada, Y., & Miura, K.	4. 巻 163
2. 論文標題 Emotion biases voluntary vertical action only with visible cues.	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Acta Psychologica	6. 最初と最後の頁 97-106
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ojiro, Y., Gobara, A., Nam, G., Sasaki, K., Kishimoto, R., Yamada, Y., & Miura, K.	4. 巻 11
2. 論文標題 Two replications of "Hierarchical encoding makes individuals in a group seem more attractive (2014; Experiment 4)".	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 The Quantitative Methods for Psychology	6. 最初と最後の頁 r8-r11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 花塚優貴・木村幸一・今西鉄也・田中正之・緑川晶	4. 巻 56
2. 論文標題 認知エンリッチメントツールとしてのiPadの利用可能性 - スマトラオランウータンを対象とした事例研究 -	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 動物水族館雑誌	6. 最初と最後の頁 71-79
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森阪匡通	4. 巻 71
2. 論文標題 イルカの音とその進化.	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 日本音響学会誌	6. 最初と最後の頁 327-333
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林美里	4. 巻 142
2. 論文標題 チンパンジー研究者、母になる ヒトの生後1歳9カ月から2歳までの発達.	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 発達	6. 最初と最後の頁 95-102
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林美里	4. 巻 144
2. 論文標題 チンパンジー研究者、母になる ヒトの生後2歳から2歳6カ月までの発達.	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 発達	6. 最初と最後の頁 95-102
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

[学会発表] 計396件 (うち招待講演 29件 / うち国際学会 125件)

1. 発表者名 友永雅己・川崎雄嵩・田中由浩
2. 発表標題 行動バイオメトリクスを用いたチンパンジーの個体識別
3. 学会等名 第34回日本霊長類学会大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 川口ゆり・狩野文浩・友永雅己
2. 発表標題 Chimpanzees and bonobos show different viewing patterns for own and other-species infants
3. 学会等名 第34回日本霊長類学会大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Gao, J., & Tomonaga, M.
2. 発表標題 The body inversion effect in chimpanzees (Pan troglodytes)
3. 学会等名 第34回日本霊長類学会大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Wilson, D., & Tomonaga, M.
2. 発表標題 Visual discrimination of primate species based on faces in chimpanzees.
3. 学会等名 第34回日本霊長類学会大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 徐沈文・山田一憲・中道正之・友永雅己
2. 発表標題 Foraging startegis in a free-ranging group of Japanese monkeys (Macaca fuscata) on Awaji Island.
3. 学会等名 第34回日本霊長類学会大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 平松千尋・山下友子・杉野強・中島祥好・綿貫宏史朗・友永雅己
2. 発表標題 多変量解析による霊長類音声の比較
3. 学会等名 第34回日本霊長類学会大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 足立幾磨・中宮賢樹・平田聡・田口真奈・川上文人・友永雅己・土井隆雄・松沢哲郎
2. 発表標題 重力環境がヒトの時間認知に与える影響：パラボリックフライトをもちいた微小重力環境実験
3. 学会等名 日本心理学会第82回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Wilson, D., & Tomonaga, M.
2. 発表標題 Exploring attentional bias towards threatening faces in chimpanzees using the dot probe task
3. 学会等名 第78回日本動物心理学会大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kawaguchi, Y., Kano, F., & Tomonaga, M.
2. 発表標題 Chimpanzees, but bonobos, preferentially view infants of own species over adults.
3. 学会等名 第78回日本動物心理学会大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Xu, S., Yamada, K., Nakamichi, M., & Tomonaga, M.
2. 発表標題 Ordering strategies of three-choice task by free-ranging Japanese monkeys (<i>Macaca fuscata</i>).
3. 学会等名 第78回日本動物心理学会大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yamamoto, C., Nikaido, R., Kashiwagi, N., & Tomonaga, M.
2. 発表標題 Imitation learning of bottlenose dolphin calves.
3. 学会等名 第78回日本動物心理学会大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Gao, J., & Tomonaga, M.
2. 発表標題 The understanding of body structure in chimpanzees.
3. 学会等名 第78回日本動物心理学会大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Tomonaga, M., Koopman, S. E., Kainz, S., Genissel, T., Pereira, C., & Matsuzawa, T.
2. 発表標題 Complex visual concept in the horse.
3. 学会等名 第78回日本動物心理学会大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kawaguchi, Y, Kano, F., Tomonaga, M.
2. 発表標題 Chimpanzees, but not bonobos, have viewing bias for infants of own species over adults.
3. 学会等名 5th student conference on behaviour and cognition, Vienna, Austria (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kawaguchi. Y, Tomonaga. M.
2. 発表標題 Rewarding and attentional effects of conspecific infant in chimpanzees.
3. 学会等名 Comparative Cognition Society. (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 伊村知子・上田祥行・友永雅己・白井述
2. 発表標題 4,5歳児における表情のアンサンブル知覚.
3. 学会等名 日本基礎心理学会第38回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 櫻庭陽子・山田信宏・高橋一郎・川上文人・高塩純一・竹下秀子・林美里・友永雅己
2. 発表標題 脳性まひの人工保育チンパンジーにおける発達支援とその評価.
3. 学会等名 動物の行動と管理学会2019年度春季研究発表会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 千藤咲, 森阪匡通, 若林郁夫, 村上勝志, 吉岡基
2. 発表標題 スナメリの社会性. 親和的・敵対的行動からみた飼育スナメリの社会性.
3. 学会等名 平成31年度日本水産学会春季大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 五十嵐健志、森阪匡通、森川穂乃佳、久保真司、三谷曜子
2. 発表標題 青森県陸奥湾でのカマイルカLagenorhynchus obliquidensの摂餌行動の観察.
3. 学会等名 第66回日本生態学会大会, 3/15-19
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 榎津農子, 森阪匡通, 村上勝志, 櫻井夏子, 植田奈穂子, 吉岡基
2. 発表標題 ハンドウイルカのおくび様行動.
3. 学会等名 日本動物行動学会大会第37回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 吉田瑞希、森阪匡通、安田健太、藤原克則、若林郁夫、櫻井夏子、田中博人、大泉宏
2. 発表標題 飼育下におけるイルカ3種の呼吸姿勢に関する研究.
3. 学会等名 第66回日本生態学会大会, 3/15-19
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中原史生・駒場昌幸・駒場久美子・佐藤瞭一・川久保晶博
2. 発表標題 飼育下のハンドウイルカはなぜ空中で鳴音を発するのか？
3. 学会等名 日本動物行動学会大会第37回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 櫻木雄太, Vladimir N. Burkanov, Russel D. Andrews, 三谷曜子
2. 発表標題 授乳期間中における雌キタオットセイの3次元的な餌探索行動
3. 学会等名 平成31年度日本水産学会春季大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 古巻史穂, 辻井浩希, 三谷曜子.
2. 発表標題 チャクチ海南部に来遊するナガスクジラのソングに関する研究.
3. 学会等名 2018年度勇魚会シンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 重松早紀, 岩原由佳, 三谷曜子.
2. 発表標題 深海性捕食者であるマッコウクジラとツチクジラの北海道周辺海域における分布特性
3. 学会等名 2018年度勇魚会シンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 藺部のぞみ, 中原史生, 大澤克揮, 大 泉宏, 斎野重夫, 吉岡基, 三谷曜子.
2. 発表標題 根室海峡に来遊するシャチの採餌行動に関する研究
3. 学会等名 2018年度勇魚会シンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 櫻木雄太, Vladimir N. Burkanov, Russel D. Andrews, 三谷曜子.
2. 発表標題 授乳期間中の雌キタオットセイにおける潜水中の三次元的な地域限定餌探索行動.
3. 学会等名 2018年度勇魚会シンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 古巻史穂, 辻井浩希, 三谷曜子.
2. 発表標題 チャクチ海南部に来遊するナガスクジラ (Balaenoptera physalus) の鳴音特性に関する研究.
3. 学会等名 平成31年度日本水産学会春季大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 櫻木雄太, Vladimir N. B., Russel D. A., 三谷曜子.
2. 発表標題 授乳期間中における雌キタオットセイの採餌戦略.
3. 学会等名 第2回犬山鯨脚類行動シンポジウム
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Sakuragi Y., Vladimir N. B., Russel D. A., Mitani Y.
2. 発表標題 Testing the optimal foraging theory on lactating female northern fur seals (Callorhinus ursinus).
3. 学会等名 Marine Mammals of the Holarctic (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Sakuragi Y., Vladimir N. B., Russel D. A., Mitani Y.
2. 発表標題 授乳期間中の雌キタオットセイ <i>Callorhinus ursinus</i> の最適採餌理論の検証.
3. 学会等名 第14回日本バイオロギング研究会シンポジウム
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 伊村知子・上田祥行・友永雅己・白井述
2. 発表標題 4,5歳児における表情のアンサンブル知覚.
3. 学会等名 日本基礎心理学会第38回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Imura, T., Kondo, T., Shirai, N., & Nakauchi, S.
2. 発表標題 Chromatic preference of art paintings by 6-12-year-old children.
3. 学会等名 41st European Conference on Visual Perception (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 伊村知子
2. 発表標題 絵画に対する色彩選好：比較認知発達からのアプローチ.
3. 学会等名 第2回犬山鯨類鰭脚類行動研究会(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 伊村知子
2. 発表標題 比較認知発達の視点から身体・空間認知を考える.
3. 学会等名 第18回 感性学研究会「視点と身体による空間認知・感性認知」(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yamanashi Y, Bando H, Ito F, Matsunaga M, Mizuno M, Shimada K, Kado R, Tanaka M, Nogami E, Hirata S
2. 発表標題 Development of bed building behaviors in captive chimpanzees: implication for critical period hypothesis and captive management.
3. 学会等名 International Primatological Society XXVII Congress (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yamanashi Y, Utagawa M, Ito S, Yasui S, Nagao M, Tanaka M
2. 発表標題 Tool-use as environmental enrichment for zoo-housed gorillas.
3. 学会等名 International Gorilla Workshop (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山本知里, 柏木伸幸, 二階堂梨沙, 友永雅己.
2. 発表標題 ハンドウイルカによる人の注意状態の認識.
3. 学会等名 第21回SAGAシンポジウム
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山本知里, 柏木伸幸, 大塚美加, 二階堂梨沙, 酒井麻衣, 友永雅己
2. 発表標題 群れでうまく暮らすには？
3. 学会等名 イルカの認知能力を探る. ?ここまでわかった！イルカ研究最前線～かごしま水族館研究報告会&研究体験会～
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yamamoto C., Kashiwagi N., Nikaido R., Tomonaga M.
2. 発表標題 How bottlenose dolphins used human competitor cues?
3. 学会等名 The 11th International Symposium on Primatology and Wildlife Science
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 柏木伸幸, 山本知里, 中村政之, 宮崎亘, 広瀬純, 久保信隆, 友永雅己.
2. 発表標題 鹿児島湾のミナミハンドウイルカについて.
3. 学会等名 第2回シンポジウム「ミナミハンドウイルカの生態」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Sasaki, K., Watanabe, K., & Yamada, Y.
2. 発表標題 Emotional judgment of invisible tryophobic images.
3. 学会等名 The 22nd Annual Meeting of the Association for the Scientific Study of Consciousness (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 池田鮎美・徐皓芹・富士直斗・朱思齊・山田祐樹
2. 発表標題 追い込まれた右利きは右を選びやすい
3. 学会等名 第2回犬山認知行動研究会議
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 米満文哉・佐々木恭志郎・郷原皓彦・山田祐樹
2. 発表標題 Me, me, me. ?クローン減価効果はアイデンティティの重複に起因する?
3. 学会等名 日本基礎心理学会第37回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 徐皓芹・佐々木恭志郎・山田祐樹
2. 発表標題 トライボフォビアにおける「感染」
3. 学会等名 日本基礎心理学会第37回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 池田鮎美・山田祐樹
2. 発表標題 嫌なやつと握手した人は嫌なやつ??ヒトを介した道徳的嫌悪の二次感染?
3. 学会等名 日本基礎心理学会第37回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 吉村直人・米満文哉・山田祐樹
2. 発表標題 呼吸経路と注意の瞬き
3. 学会等名 日本基礎心理学会第37回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 郷原皓彦・山田祐樹
2. 発表標題 「びっぴ」は「ぶっぶ」より鋭い?日本語のbouba/kiki effectにおける母音優位性?
3. 学会等名 日本基礎心理学会第37回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 米満文哉・佐々木恭志郎・郷原皓彦・山田祐樹
2. 発表標題 ヒトの重複によるきもみ
3. 学会等名 第2回犬山鯨類鰭脚類行動シンポジウム
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 佐々木恭志郎・渡邊克巳・山田祐樹
2. 発表標題 意図的行為に基づいたモノの所有感
3. 学会等名 日本心理学会第82回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山田祐樹・佐々木恭志郎・井隼経子
2. 発表標題 感情の身体化が崩壊するとき
3. 学会等名 日本心理学会第82回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 石川知夏・小林哲生・中響子・米満文哉・山田祐樹
2. 発表標題 男性の多い職場で?働く女性による顔の魅力判断
3. 学会等名 日本心理学会第82回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山田祐樹?
2. 発表標題 感性理解のための遊撃的研究?
3. 学会等名 日本心理学会第82回大会(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 佐々木恭志郎・山田祐樹・渡邊克巳
2. 発表標題 触るな危険! ? 円形集合体への接触忌避反応 ?
3. 学会等名 日本認知心理学会第16回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 林美里・竹下秀子
2. 発表標題 飼育下の大型類人猿とヒト幼児における定位操作の発達から見た野生での道具使用行動
3. 学会等名 第34回日本霊長類学会大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hayashi, M., Takeshita, H.
2. 発表標題 Development of combinatory manipulation in captive great apes and humans: An implication for tool-using behavior in the wild.
3. 学会等名 27th International Primatological Society Congress (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 林美里
2. 発表標題 急性脊髄炎による四肢不全麻痺を発症したチンパンジー・レオ 10年以上にわたる長期リハビリテーションの取り組み
3. 学会等名 第39回バイオメカニズム学術講演会 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 林美里
2. 発表標題 物とかかわる知性の発達と進化
3. 学会等名 中部大学第11回創発セミナー (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 林美里
2. 発表標題 飼育下と野生のチンパンジーにみる母子関係 ～社会性の発達を支える双方向の愛着形成～
3. 学会等名 第21回SAGAシンポジウム(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 足立幾磨
2. 発表標題 先行提示音がチンパンジーの明るさ判断を歪める
3. 学会等名 第34回日本霊長類学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yu, L., & Tomonaga, M.
2. 発表標題 A comparative approach to drumming behavior in chimpanzees
3. 学会等名 The 6th Conference of the Asia-Pacific Society for the Cognitive Sciences of Music(国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Wilson, D. A., Tomonaga, M., & Vick, S.J.
2. 発表標題 Eye preferences in response to emotional stimuli in captive capuchin monkeys (<i>Sapajus apella</i>)
3. 学会等名 50th Anniversary Meeting of the Primate Society of Great Britain(国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 齋藤 渉・兼子明久・宮部貴子・友永雅己・桃井保子
2. 発表標題 京都大学霊長類研究所のチンパンジー1個体に生じた外傷歯に対する歯科処置と術後6年の経過
3. 学会等名 日本歯科保存学会2017年度春季学術大会（第146回）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 友永雅己・Pereira, C.・熊崎清則・原口大貴・櫻井夏子・Wilkinson, A.・Gonseth, C.・松沢哲郎
2. 発表標題 Sense of Number : 数の大小判断の種間比較
3. 学会等名 第33回日本霊長類学会大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 櫻庭陽子・山田信宏・高橋一郎・川上文人・高塩純一・竹下秀子・友永雅己・林美里
2. 発表標題 脳性まひチンパンジー女兒の行動分析の試み
3. 学会等名 第33回日本霊長類学会大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Takiyama, H., Hattori, Y., & Tomonaga, M.
2. 発表標題 Effect of distractor timing on localizing auditory source in chimpanzees (Pan troglodytes)
3. 学会等名 行動2017：日本動物行動学関連学会・研究会合同大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 伊村知子・和田有史・増田 知尋・白井述・川上 文人・岡嶋 克典・友永 雅己
2. 発表標題 チンパンジーは特徴の「平均」を知覚できるのか?
3. 学会等名 行動2017：日本動物行動学関連学会・研究会合同大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 友永雅己・熊崎清則・Camus, F.・Nicod, S.・Pereira, C.・Sauvage, P. C.・Gonseth, C.・原口大貴・松沢哲郎
2. 発表標題 Clever Hans 2017：ウマにおける数の相対的大小判断の規定要因
3. 学会等名 行動2017：日本動物行動学関連学会・研究会合同大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kawaguchi, Y., & Tomonaga, M.
2. 発表標題 Reward value of conspecific infants in chimpanzees
3. 学会等名 行動2017：日本動物行動学関連学会・研究会合同大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Gao, J., & Tomonaga, M.
2. 発表標題 The body inversion effect in chimpanzees (Pan troglodytes)
3. 学会等名 行動2017：日本動物行動学関連学会・研究会合同大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 櫻庭陽子・山田信宏・高橋一郎・川上文人・高塩純一・竹下秀子・田中正之・友永雅己・林美里
2. 発表標題 脳性まひチンパンジーにおける四肢行動形態の変化－姿勢・行動との関連
3. 学会等名 行動2017：日本動物行動学関連学会・研究会合同大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 櫻庭陽子・山田信宏・高橋一郎・川上文人・高塩純一・竹下秀子・田中正之・友永雅己・林美里
2. 発表標題 脳性まひチンパンジー女兒の姿勢と行動－麻痺側後肢の動きに着目して
3. 学会等名 日本子ども学会第14回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 竹下秀子・山田信宏・高塩純一・高橋一郎・櫻庭陽子・川上文人・福田佳子・金崎衣津子・本田裕介・多々良成紀・林美里・田中正之・友永雅己
2. 発表標題 脳性まひチンパンジーの生後年間の発達と発達支援のとりくみ
3. 学会等名 行動2017：日本動物行動学関連学会・研究会合同大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Wilson, D. A., & Tomonaga, M.
2. 発表標題 Exploring attentional bias in chimpanzees using the dot probe task
3. 学会等名 行動2017：日本動物行動学関連学会・研究会合同大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山本知里・柏木伸幸・大塚美加・西村香織・酒井麻衣・友永雅己
2. 発表標題 協力課題におけるハンドウイルカのパートナーの認識
3. 学会等名 行動2017：日本動物行動学関連学会・研究会合同大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山本知里・二階堂梨沙・柏木伸幸・大塚美加・友永雅己
2. 発表標題 ハンドウイルカの子どもにおけるトリックの模倣と発達
3. 学会等名 2017年度勇魚会シンポジウム
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 伊村知子・澤山正貴・白井述・友永雅己・西田真也
2. 発表標題 ヒト児童における光沢質感の知覚
3. 学会等名 日本基礎心理学会第36回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 瀧山拓哉・服部裕子・友永雅己
2. 発表標題 妨害刺激の再生タイミングがチンパンジー(Pan troglodytes)の音源定位能力に与える影響
3. 学会等名 第33回日本霊長類学会大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Gao, J., & Tomonaga, M.
2. 発表標題 The body inversion effect in chimpanzees (Pan troglodytes)
3. 学会等名 日本心理学会第81回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 横山実玖歩・友永雅己
2. 発表標題 チンパンジーにおけるギャップ効果：定位反応課題による検討
3. 学会等名 行動2017：日本動物行動学関連学会・研究会合同大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 友永雅己
2. 発表標題 SAGAから学んだこと
3. 学会等名 第20回SAGAシンポジウム、セッション 「SAGAの20年を振り返る」
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山本知里・柏木伸幸・大塚美加・二階堂梨沙・西村香織・酒井麻衣・友永雅己
2. 発表標題 ハンドウイルカの社会的知性に関する認知研究
3. 学会等名 第1回犬山鯨類鰭脚類行動認知生態研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山本知里・二階堂梨沙・柏木伸幸・大塚美加・友永雅己
2. 発表標題 ハンドウイルカのコドモにおけるトリックの模倣と発達
3. 学会等名 心の先端研究ユニット研究交流会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山本知里・柏木伸幸・大塚美加・友永雅己
2. 発表標題 ハンドウイルカの視覚に関する実験と展示・解説活動の試み
3. 学会等名 動物園大学8
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中村政之・柏木伸幸・山本知里・友永雅己
2. 発表標題 鹿児島県湾の鯨類調査におけるドローンの活用について
3. 学会等名 海獣技術者研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 櫻井夏子・友永雅己
2. 発表標題 ハンドウイルカにおけるエコロケーションによる数の認識
3. 学会等名 海獣技術者研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Wilson, D. A., & Tomonaga, M.
2. 発表標題 Facial discrimination and attentional bias towards faces in chimpanzees - Final PWS Report
3. 学会等名 8th International Symposium on Primatology and Wildlife Science (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Gao, J., Tomonaga, M.
2. 発表標題 The Body Inversion Effect in Chimpanzees (Pan troglodytes)
3. 学会等名 The 8th International Symposium on Primatology and Wildlife Science (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kawaguchi, Y., & Tomonaga, M.
2. 発表標題 Are chimpanzees attracted by infant?
3. 学会等名 The 8th International Symposium on Primatology and Wildlife Science (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kawaguchi, Y., & Tomonaga, M.
2. 発表標題 Comparative approach for understanding the recognition of infant
3. 学会等名 CER-NIE Joint Symposium
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 瀧山拓哉・服部裕子・友永雅己
2. 発表標題 妨害刺激とターゲット刺激の提示時間差がチンパンジーの音源定位能力に与える影響
3. 学会等名 京都大学心の先端研究ユニット「こころの若手研究者交流大会」
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 友永雅己・熊崎清則・Camus, F.・Nicod, S.・Pereira, C.・Sauvage, P. C.・Gonseth, C.・原口大貴・松沢哲郎
2. 発表標題 Clever Hans 2017
3. 学会等名 第20回SAGAシンポジウム
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 兼子明久・山中淳史・石上暁代・前田典彦・宮部貴子・林美里・友永雅己・鈴木樹理
2. 発表標題 京都大学霊長類研究所におけるチンパンジーの健康診断
3. 学会等名 第20回SAGAシンポジウム
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kawaguchi, Y., & Tomonaga, M.
2. 発表標題 Are chimpanzees attracted by infant conspecifics?
3. 学会等名 第20回SAGAシンポジウム
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Gao, J., & Tomonaga, M.
2. 発表標題 The body inversion effect in chimpanzees (Pan troglodytes)
3. 学会等名 第20回SAGAシンポジウム
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 横山実玖歩・友永雅己
2. 発表標題 チンパンジーにおけるギャップ効果：定位反応課題による検討
3. 学会等名 第20回SAGAシンポジウム
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 岡本公彰・宮之原真由・今井奨・野村義・齋藤渉・桃井保子・兼子明久・宮部貴子・友永雅己・花田信弘
2. 発表標題 チンパンジー口腔微生物叢の解析
3. 学会等名 第20回SAGAシンポジウム
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山本知里・二階堂梨沙・柏木伸幸・大塚美加・友永雅己
2. 発表標題 ハンドウイルカの子どもにおける模倣学習
3. 学会等名 第20回SAGAシンポジウム
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 齋藤渉・兼子明久・宮部貴子・友永雅己・桃井保子
2. 発表標題 京都大学霊長類研究所のチンパンジー1個体に生じた外傷歯に対する歯科処置と術後6年の経過
3. 学会等名 第20回SAGAシンポジウム
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 桃井保子・齋藤渉・兼子明久・宮部貴子・友永雅己
2. 発表標題 京都大学霊長類研究所のチンパンジー11個体の口腔健康状態について
3. 学会等名 第20回SAGAシンポジウム
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 友永雅己
2. 発表標題 センス・オブ・ナンバー：動物たちは数をどう理解しているか
3. 学会等名 第38回京大モンキー日曜サロン
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 友永雅己
2. 発表標題 イルカは世界をどう見ているか？ 陸海空の心の世界
3. 学会等名 平成29年度名古屋港水族館共同研究講演会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 友永雅己・櫻井夏子
2. 発表標題 ハンドウイルカによるエコロケーションを用いた「数」の認知
3. 学会等名 第1回犬山鯨類鰭脚類行動シンポジウム
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 友永雅己
2. 発表標題 ふるまいから探るチンパンジーのこころ
3. 学会等名 第1回犬山認知行動研究会議
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 友永雅己
2. 発表標題 チンパンジー研究こぼれ話(その1)
3. 学会等名 日本モンキーセンター第5回ミュージアムトーク
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 友永雅己
2. 発表標題 イルカ認知研究と大型類人猿の先例から
3. 学会等名 第三回水族館大学『イルカの飼育のこれから』
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 瀧山拓哉・服部裕子・友永雅己
2. 発表標題 妨害刺激と標的刺激の提示時間差がチンパンジー (Pan troglodytes) とヒト (Homo sapiens) の音源定位能力に与える影響
3. 学会等名 第62回プリマーテス研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Gao, J., & Tomonaga, M.
2. 発表標題 The body inversion effect in chimpanzees (Pan troglodytes)
3. 学会等名 第62回プリマーテス研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kawaguchi, Y., & Tomonaga, M.
2. 発表標題 Gaze pattern for adult and infant faces in chimpanzees
3. 学会等名 第62回プリマーテス研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Wilson, D. A., & Tomonaga, M.
2. 発表標題 Exploring attentional bias in chimpanzees using the dot probe task
3. 学会等名 第62回プリマーテス研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Wilson, D. A., & Tomonaga, M.
2. 発表標題 Facial discrimination and attentional bias towards faces in chimpanzees
3. 学会等名 The 9th International Symposium on Primatology and Wildlife Science (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Gao, J., & Tomonaga, M.
2. 発表標題 The body inversion effect in chimpanzees (Pan troglodytes)
3. 学会等名 The 9th International Symposium on Primatology and Wildlife Science (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kawaguchi, Y., Kano, F., & Tomonaga, M.
2. 発表標題 Visual attention for adult and infant faces in apes
3. 学会等名 The 9th International Symposium on Primatology and Wildlife Science (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 伊村知子
2. 発表標題 チンパンジーにおけるアンサンブル知覚. 比較認知科学の視点から.
3. 学会等名 日本心理学会第81回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 伊村知子・澤山正貴・白井述・友永雅己・西田眞也
2. 発表標題 ヒト児童における光沢質感の知覚
3. 学会等名 日本基礎心理学会第36回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 林美里・竹下秀子
2. 発表標題 ヒト乳幼児と大型類人猿4種における物の操作と道具使用から見た認知発達
3. 学会等名 第33回日本霊長類学会大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Hayashi M, Takeshita H
2. 発表標題 Object manipulation and tool use in great apes and humans
3. 学会等名 The 2nd African Primatological Consortium Conference (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Hayashi M, Takeshita H
2. 発表標題 Development of combinatory manipulation and tool-use tendencies in great apes and humans
3. 学会等名 The 8th International Symposium on Primatology and Wildlife Science (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 林美里
2. 発表標題 大型類人猿の研究からヒトを知る
3. 学会等名 東京フォーラム2017「フィールドとラボと社会をつなぐ野生動物研究」(招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 林美里
2. 発表標題 母親による育児の支援から考える飼育チンパンジーの未来
3. 学会等名 SAGA20(招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Hayashi M, Takeshita H
2. 発表標題 Development of combinatory manipulation and tool use in great apes and humans
3. 学会等名 The 62nd PRIMATES Conference
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hayashi M, Takeshita H
2. 発表標題 Development of combinatory manipulation and tool-use repertoire in great apes and humans
3. 学会等名 The 9th International Symposium on Primatology and Wildlife Science(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 林美里
2. 発表標題 物の操作における行為の文法から見たチンパンジーとヒトの子どもの認知発達
3. 学会等名 共創言語進化第1回領域全体会議
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 林美里
2. 発表標題 チンパンジーの研究からヒトを知る
3. 学会等名 第13回京都大学附置研究所・センターシンポジウム(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Tanaka, M, Sakuraba, Y.
2. 発表標題 Exhibition of Primate Intelligence at the Kyoto City Zoo
3. 学会等名 2017 The 6th AZEC & 33rd ASET Joint International Conference (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Tanaka M, Ito F, Bando H, Mizuno A, Nagao M.
2. 発表標題 Eight years of long-lasting enrichment for zoo primates: Serial learning task as cognitive enrichment and exhibition of primate intelligence in Kyoto City Zoo
3. 学会等名 The 13th International Conference on Environmental Enrichment (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Yamanashi Y, Matsunaga M, Ito F, Bando H, Shimada K, Mizuno A, Kado R, Tanaka M
2. 発表標題 Environmental enrichment for facilitating behavioral acquisition in captive chimpanzees: maintaining behavioral diversity among zoo population
3. 学会等名 The 13th International Conference on Environmental Enrichment (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 田中正之
2. 発表標題 シロテテナガザルにおけるアラビア数系列の学習
3. 学会等名 行動2017
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 岡部光太・河村あゆみ・竹中靖典・伊藤英之・中野和彦・田中正之
2. 発表標題 飼育管理方法の改善に向けたキリンの夜間伏臥位休息時間の調査
3. 学会等名 行動2017
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山梨裕美・板東はるな・伊藤二三夫・松永雅之・水野章裕・島田かなえ・門竜一郎・田中正之
2. 発表標題 飼育チンパンジーにおけるベッド作りを促す寝台の設置と評価
3. 学会等名 日本家畜管理学会・応用動物行動学会2018年度合同研究発表会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 田中正之
2. 発表標題 シロテテナガザルの学習展示における経年変化～京都市動物園における9年間の記録から～
3. 学会等名 日本家畜管理学会・応用動物行動学会2018年度合同研究発表会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 岡部光太・河村あゆみ・佐藤元治・渡辺英博・竹中靖典・伊藤英之・中野和彦・田中正之
2. 発表標題 同居グレビーシマウマ・キリンにおける社会行動の同居方法による変化
3. 学会等名 日本家畜管理学会・応用動物行動学会2018年度合同研究発表会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 三谷曜子
2. 発表標題 ゼニガタアザラシの行動から漁業との共存への道を探る
3. 学会等名 第1回犬山鯨類鰭脚類行動シンポジウム
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Hirakawa, Y., Horimoto, T., Mitani, Y
2. 発表標題 The simplification of discriminating sexual maturity of male northern fur seals (*Callorhinus ursinus*) based on morphological measurement of genital organs
3. 学会等名 22nd Biennial Conference on the Biology of Marine Mammals (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Yoko Mitani, Russel D. Andrews, Shota Haba, Fumio Nakahara, Haruna Miyamoto, Hiroshi Ohizumi, Shigeo Saino, Yukiko Yamamoto, Motoi Yoshioka
2. 発表標題 Satellite-monitored movements of killer whales off Hokkaido, Japan
3. 学会等名 22nd Biennial Conference on the Biology of Marine Mammals (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Otsuki, M., Horimoto, T., Mitani, Y
2. 発表標題 Do testosterone concentrations predict the likelihood of bycatch in the northern fur seal?
3. 学会等名 22nd Biennial Conference on the Biology of Marine Mammals (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 三谷曜子, Russel D. Andrews, 幅祥太, 宮本春奈, 中原史生, 大泉宏, 齋野重夫, 山本友紀子, 吉岡基
2. 発表標題 北海道東部海域におけるシャチの移動と潜水行動
3. 学会等名 行動2017
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山田祐樹
2. 発表標題 不快
3. 学会等名 第9回脳情報学セミナー「視覚的感性の心理物理学と心理生理学」(招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Yonemitsu, F., Sasaki, K., & Yamada, Y.
2. 発表標題 Olfactory cue gains preference for novel fruit depending on categorical compatibility
3. 学会等名 The 33rd Annual Meeting of the International Society for Psychophysics (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Gobara, A., & Yamada, Y.
2. 発表標題 Stream/bounce effect in illusory line motion
3. 学会等名 The 33rd Annual Meeting of the International Society for Psychophysics (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Sasaki, K., & Yamada, Y.
2. 発表標題 Temporal bias induced by pattern regularity
3. 学会等名 The 33rd Annual Meeting of the International Society for Psychophysics (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Okumura, Y., Ohtake, Y., Gobara, A., Sasaki, K., Yonemitsu, F., Naka, K., Watanabe, N., Fujita, S., Hattori, T., Yamada, Y., & Kobayashi, T.
2. 発表標題 The effect of an intervention assisting mothers with picture book search
3. 学会等名 The 27th annual conference of European Early Childhood Education Research Association (EECERA 2017) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Miyagi, T., Fujimura, H., Kuroda, T., Yamada, Y., Takeuchi, S., & Miyazaki, M.
2. 発表標題 Neurophysiological responses during pattern randomness judgment: An event-related potential study
3. 学会等名 The 40th Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Yonemitsu, F., Sasaki, K., Gobara, A., & Yamada, Y.
2. 発表標題 The clone devaluation effect: Many exactly same faces induce eerie impressions
3. 学会等名 The 17th annual meeting of the Vision Sciences Society (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Gobara, A., & Yamada, Y.
2. 発表標題 Vertical anisotropy in stream/bounce perception of refracted motion trajectory
3. 学会等名 The 17th annual meeting of the Vision Sciences Society (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 大竹裕香・奥村優子・山田祐樹・小林哲生
2. 発表標題 日本語版絵本知識測定尺度の作成
3. 学会等名 電子情報通信学会HCS研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山田祐樹
2. 発表標題 昆虫食は試食会では普及しないーサイエンスコミュニケーションへの示唆ー
3. 学会等名 第17回感性学研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 佐々木恭志郎・山田祐樹
2. 発表標題 トライボホピアに対する実験心理學的ー考察
3. 学会等名 電子情報通信学会HIP研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 中響子・山田祐樹
2. 発表標題 顔のホク口は魅力度を増加させるのか？
3. 学会等名 九州心理学会第78回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 佐々木恭志郎・田中觀自・渡邊克巳
2. 発表標題 近くのモノは私のモノ 所有感を変調する自己との空間的距離
3. 学会等名 日本基礎心理学会第36回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 吉村直人・郷原皓彦・山田祐樹
2. 発表標題 コーホー効果-呼吸動作によって変調される交差反発知覚-
3. 学会等名 日本基礎心理学会第36回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 米満文哉・佐々木恭志郎・郷原皓彦・山田祐樹
2. 発表標題 クローン減価効果と関連する個人特性
3. 学会等名 日本基礎心理学会第36回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 郷原皓彦・吉村直人・山田祐樹
2. 発表標題 (` `)は交差・反発知覚を変調する
3. 学会等名 日本基礎心理学会第36回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 松原和也・角谷雄哉・山田祐樹・木村敦・曲山幸生・宮ノ下明大・日下部裕子・和田有史
2. 発表標題 昆虫食の摂食経験と潜在的態度に関するインターネット調査を用いた検討
3. 学会等名 日本官能評価学会2016年大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 佐々木恭志郎・山田祐樹
2. 発表標題 トライボにトライを
3. 学会等名 第1回犬山鯨類鰭脚類行動シンポジウム (Inuyama CetaPin 1)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 郷原皓彦・山田祐樹
2. 発表標題 オノマトベから想起される自伝的記憶の諸特性-どきどきした「瞬間」を想起させる-
3. 学会等名 日本心理学会第81回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 佐々木恭志郎・山田祐樹
2. 発表標題 自閉傾向者の身体化認知 上下空間と感情の分離
3. 学会等名 日本心理学会第81回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 新田博司・富田青斗・張伊・周欣欣・山田祐樹
2. 発表標題 ラバーハンドの嫌悪感
3. 学会等名 日本心理学会第81回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 米満文哉・佐々木恭志郎・郷原皓彦・山田祐樹
2. 発表標題 新たな減価効果 顔の多重重複は不気味さを生む
3. 学会等名 日本認知科学会第34回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 郷原皓彦・山田祐樹
2. 発表標題 オノマトペによる視覚処理の変調
3. 学会等名 日本認知科学会第34回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 吉村直人・米満文哉・マルモレホ=ラモス, F.・山田祐樹
2. 発表標題 口呼吸と鼻呼吸による視覚探索への影響
3. 学会等名 日本視覚学会2017年夏季大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 郷原皓彦・山田祐樹
2. 発表標題 交差・反発知覚の運動方位依存性
3. 学会等名 日本視覚学会2017年夏季大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 大竹裕香・奥村優子・郷原皓彦・中響子・米満文哉・佐々木恭志郎・渡邊直美・藤田早苗・服部正嗣・山田祐樹・小林哲生
2. 発表標題 絵本検索システムの利用による母親の絵本探し行動の変化
3. 学会等名 日本赤ちゃん学会第17回学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 中響子・米満文哉・山田祐樹
2. 発表標題 ジェンダー環境によって異性の好みが変わる-女子大学と共学大学の比較-
3. 学会等名 日本感情心理学会第25回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 佐々木恭志郎・山田祐樹・黒木大一朗・三浦佳世
2. 発表標題 集合体による不快感 空間周波数成分と集合体恐怖特性からの検討
3. 学会等名 日本感情心理学会第25回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 米満文哉・佐々木恭志郎・山田祐樹
2. 発表標題 新奇な果実はよく知る果実臭で好物化
3. 学会等名 日本感情心理学会第25回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 薛玉テイ・郷原皓彦・佐々木恭志郎・山田祐樹
2. 発表標題 オノマトベと画像の情報統合に基づいた視覚的嫌悪感の形成
3. 学会等名 日本感情心理学会第25回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 米満文哉・成儒彬・中響子・山田祐樹・Marmolejo-Ramos Fernando
2. 発表標題 重りを持つと視力が上がる？
3. 学会等名 日本認知心理学会第15回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 郷原皓彦・山田祐樹
2. 発表標題 多重オノマトベの概念的認知
3. 学会等名 日本認知心理学会第15回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Morisaka T, Dey S, Choudhary SK, Kelkar N.
2. 発表標題 Acoustic populations in the endangered South Asian river dolphin?
3. 学会等名 International Biogeography Society 2017 Meeting (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Tanaka M, Sakai M, Morisaka T, Kogi K, Kohshima S
2. 発表標題 Shark-bite wounds on wild Indo-Pacific bottlenose dolphins (<i>Tursiops aduncus</i>): A possible marker of their night time behavior and/or habitat use
3. 学会等名 Behaviour 2017 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 森阪匡通, 五十嵐健志, 三谷曜子, 太田守信
2. 発表標題 陸奥湾に來遊するカマイルカの子備的音響モニタリング
3. 学会等名 平成30年度日本水産学会春季大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 森阪匡通, Dey S, Choudhary SK, Kelkar N
2. 発表標題 ガンジスカワイルカの発する鳴音の音源音圧
3. 学会等名 行動2017
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 吉田瑞希, 森阪匡通, 稲田喜信, 唐澤勇, 大植伸之, 安田健太, 藤原克則, 浅川弘, 若林郁夫, 千賀康弘
2. 発表標題 小型イルカの呼吸時の姿勢に関する研究-ハイスピードカメラを用いて-
3. 学会等名 平成29年度海洋理工学会秋季大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 辻紀海香, 小木万布, 森阪匡通, 幸島司郎
2. 発表標題 御蔵島に生息するミナミハンドウイルカの夜間生態
3. 学会等名 平成30年度日本水産学会春季大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Wilson, D., & Tomonaga, M.
2. 発表標題 Perceptual categorisation of primate faces by chimpanzees
3. 学会等名 The 6th International Symposium on Primatology and Wildlife Science and the 5th CCT-Bio International Workshop on Tropical Biodiversity and Conservation (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Tomonaga, M.
2. 発表標題 How chimpanzees perceive faces: An update after nine years of investigation
3. 学会等名 Chimpanzees in Context (Understanding Chimpanzees IV)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Tomonaga, M.
2. 発表標題 Cognition des equides: Cognitive studies of horses in comparison with the other mammals
3. 学会等名 1er SYMPOSIUM "Equitation, langage et cognition"
4. 発表年 2017年

1 . 発表者名 Tomonaga, M., Kumazaki, K., Gonseth, C., Haraguchi, D., Sakurai, N., & Wilkinson, A.
2 . 発表標題 How chimpanzees and other animals use “ numbers ” : comparative study of relative numerosity judgments
3 . 学会等名 50th anniversary symposium of Primate Research Institute, Kyoto University, “ Past, present, and future of primatology ”
4 . 発表年 2017年

1 . 発表者名 Wilson, D., & Tomonaga, M.
2 . 発表標題 How do chimpanzees discriminate primate species based on faces?
3 . 学会等名 50th anniversary symposium of Primate Research Institute, Kyoto University, “ Past, present, and future of primatology ”
4 . 発表年 2017年

1 . 発表者名 Gao, J., Su, Y., Tomonaga, M., & Matsuzawa, T.
2 . 発表標題 Learning the rock-paper-scissors game rule in chimpanzees and children
3 . 学会等名 50th anniversary symposium of Primate Research Institute, Kyoto University, “ Past, present, and future of primatology ”
4 . 発表年 2017年

1 . 発表者名 Tomonaga, M.
2 . 発表標題 How horses see the world: Comparative-cognitive perspective
3 . 学会等名 The 7th International Symposium on Primatology and Wildlife Science, Session “ Equine Science ” (国際学会)
4 . 発表年 2017年

1. 発表者名 Yamamoto, C., Kashiwagi, N., Otsuka, M., & Tomonaga, M.
2. 発表標題 Visual size discrimination in bottlenose dolphins using computer-controlled monitor system
3. 学会等名 The 7th International Symposium on Primatology and Wildlife Science, Session “Equine Science” (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Gao, J., Su, Y., Tomonaga, M., & Matsuzawa, T.
2. 発表標題 Learning the rules of the rock-paper-scissors game: Comparison between chimpanzees and human children
3. 学会等名 The 7th International Symposium on Primatology and Wildlife Science, Session “Equine Science” (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kawaguchi, Y., & Tomonaga, M.
2. 発表標題 Do chimpanzee also prefer baby to adult? : preliminary report
3. 学会等名 The 7th International Symposium on Primatology and Wildlife Science, Session “Equine Science” (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Wilson, D., & Tomonaga, M.
2. 発表標題 How do chimpanzees discriminate primate species based on faces?
3. 学会等名 The 7th International Symposium on Primatology and Wildlife Science, Session “Equine Science” (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Tomonaga, M.
2. 発表標題 How they see the world: Visual cognition compared among humans, chimpanzees, horses, and dolphins
3. 学会等名 31st International Congress of Psychology (ICP2016), Diversity in Harmony Symposia, “ Evolutionary Perspectives in Psychology ” (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Ushitani, T., Fujii, K., Katsube, M., Hoshino, Y., Goto, K., Imura, T., & Tomonaga, M.
2. 発表標題 Object-based attention in evolution
3. 学会等名 31st International Congress of Psychology (ICP2016), Symposium “ Ecological adaptation and the diversity of visual perception ” (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Sakuraba, Y., Tomonaga, M., Hayashi, M.
2. 発表標題 Walking rehabilitation of a physically disabled chimpanzee using cognitive tasks: a case study
3. 学会等名 31st International Congress of Psychology (ICP2016) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Wilson, D. A., Tomonaga, M., & Vick, S. J.
2. 発表標題 Eye preferences in response to emotional stimuli in captive capuchin monkeys (<i>Sapajus apella</i>)
3. 学会等名 31st International Congress of Psychology (ICP2016) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Gao, J., Tomonaga, M., Matsuzawa, T., Su, Y.
2. 発表標題 The Rock-Paper-Scissors game in chimpanzees (Pan troglodytes): Test for intransitive inference using the computer controlled discrimination task
3. 学会等名 31st International Congress of Psychology (ICP2016) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Lira, Y., & Tomonaga, M.
2. 発表標題 An experimental study on interactional synchrony in chimpanzees and humans
3. 学会等名 31st International Congress of Psychology (ICP2016) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Yena, K., Choe, J., Rho, J., & Tomonaga, M.
2. 発表標題 Chimpanzees, but not orangutans display aversive reactions toward their partner receiving a superior reward
3. 学会等名 31st International Congress of Psychology (ICP2016) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Takeshita, H., Takashio, J., Yamada, N., Takahashi, I., Kawakami, F., Fukuda, K., Honda, Y., Tatara, N., Shimomoto, Y., Hayashi, M., Mizuno, Y., Tomonaga, M.
2. 発表標題 Behavioral and cognitive development in an infant chimpanzee with cerebral palsy: An approach applying human childcare and therapy services
3. 学会等名 31st International Congress of Psychology (ICP2016) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1 . 発表者名 Wilson, D. A., Tomonaga, M., Vick, S. J.
2 . 発表標題 Eye preferences in response to emotional stimuli in captive capuchin monkeys (<i>Sapajus apella</i>)
3 . 学会等名 50th International Society for Applied Ethology Congress (国際学会)
4 . 発表年 2016年

1 . 発表者名 Gao, J., Tomonaga, M., Matsuzawa, T., Su, Y.
2 . 発表標題 The rock-paper-scissors game in chimpanzees (<i>Pan troglodytes</i>): Testing for intransitive inference using a computer-controlled discrimination task
3 . 学会等名 Joint meeting of the International Primatological Society and the American Society of Primatologists (国際学会)
4 . 発表年 2016年

1 . 発表者名 Wilson, D. A., Tomonaga, M., & Vick, S. J.
2 . 発表標題 Eye preferences in response to emotional stimuli in captive capuchin monkeys (<i>Sapajus apella</i>)
3 . 学会等名 Joint meeting of the International Primatological Society and the American Society of Primatologists (国際学会)
4 . 発表年 2016年

1 . 発表者名 Kim, Y., Choe, J., Rho, J., & Tomonaga, M.
2 . 発表標題 Chimpanzees, but not orangutans, display aversive reactions toward their partner with a superior reward
3 . 学会等名 Joint meeting of the International Primatological Society and the American Society of Primatologists (国際学会)
4 . 発表年 2016年

1. 発表者名 Watanuki, K., Okumura, M., Uchikoshi, M., Tomonaga, M., Idani, G., & Matsuzawa, T.
2. 発表標題 Gathering and evaluating information on captive siamangs (<i>symphalangus syndactylus</i>) in Japan for good population management
3. 学会等名 Joint meeting of the International Primatological Society and the American Society of Primatologists (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Tomonaga, M., Kawakami, F., & Imura, T.
2. 発表標題 Eyes on face: how chimpanzees and humans perceive conspecific and heterospecific eyes
3. 学会等名 Joint meeting of the International Primatological Society and the American Society of Primatologists Symposium (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Ochiai, T., Watanuki, K., Usono, T., Morimura, N., Hirata, S., Tomonaga, M., Idani, G., & Matsuzawa, T.
2. 発表標題 The early history of captive chimpanzees (<i>Pan troglodytes</i>) in Japan
3. 学会等名 Joint meeting of the International Primatological Society and the American Society of Primatologists (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Imura, T., Masuda, T., Wada, Y., Tomonaga, M., & Okajima, K.
2. 発表標題 Chimpanzees (<i>Pan troglodytes</i>) can perceive the freshness of foods
3. 学会等名 Joint meeting of the International Primatological Society and the American Society of Primatologists (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 友永雅己
2. 発表標題 チンパンジーにおける視線方向の弁別
3. 学会等名 第32回日本霊長類学会大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Gao, J., Su, Y., Tomonaga, M., & Matsuzawa, T.
2. 発表標題 The rock-paper-scissors game in chimpanzees (Pan troglodytes)
3. 学会等名 第32回日本霊長類学会大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 友永雅己・Wilson, D. A.・高橋康介
2. 発表標題 チンパンジーにおける「曲がり盲」
3. 学会等名 日本基礎心理学会第35回大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 友永雅己
2. 発表標題 参照点としての大型類人猿、特異点としての大型類人猿
3. 学会等名 日本社会心理学会第57回大会、シンポジウム02「比較することの意味と意義：社会心理学と比較認知科学の新たな接点を求めて」
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Tomonaga, M., & Imura, T.
2. 発表標題 Attention to inattention: Visual search for the other's gaze by chimpanzees
3. 学会等名 日本動物心理学会第76回大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 友永雅己
2. 発表標題 学会で質問しよう
3. 学会等名 日本動物心理学会第76回大会、教育講演「初心者のための英語口頭発表」
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Wilson, D. A., & Tomonaga, M.
2. 発表標題 Perceptual categorisation of primate faces by chimpanzees
3. 学会等名 日本動物心理学会第76回大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 友永雅己
2. 発表標題 動物たちの心の世界
3. 学会等名 日本モンキーセンター2016年度京大モンキーキャンパス
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 友永雅己
2. 発表標題 森のこころ、草原のこころ、海のこころ
3. 学会等名 行動生物学サイエンスカフェ2016 - 行動生物学への誘い - 」
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 友永雅己・Wilson, D. A.・高橋康介
2. 発表標題 チンパンジーにおける「曲がり盲」
3. 学会等名 第19回SAGAシンポジウム
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 友永雅己・森村成樹
2. 発表標題 「不当な人工保育に対する批判声明」についての意識調査報告
3. 学会等名 第19回SAGAシンポジウム、シンポジウム2「チンパンジーの人工保育問題を考える」
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 綿貫宏史朗・岩原真利・西村剛・今井啓雄・平田聡・友永雅己・松沢哲郎
2. 発表標題 大型類人猿情報ネットワークGAIN第3期の5年間：非侵襲的類人猿研究の推進
3. 学会等名 第19回SAGAシンポジウム
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 山本知里・柏木伸幸・大塚美加・西村圭織・酒井麻衣・友永雅己
2. 発表標題 飼育ハンドウイルカにおける協力行動に関する認知機能
3. 学会等名 第19回SAGAシンポジウム
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 兼子明久・林美里・櫻庭陽子・宮部貴子・前田典彦・山中淳史・ゴドジャリ静・木下こづえ・友永雅己
2. 発表標題 レオとともに歩んだ10年
3. 学会等名 第19回SAGAシンポジウム
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 友永雅己
2. 発表標題 チンパンジーから探るヒトのこころの進化
3. 学会等名 関西実験動物研究会第132回研究会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 原口大希・熊崎清則・Savage, P.・三井桃衣・半田希・長谷川裕士・Wilkinson, A.・友永雅己
2. 発表標題 The study of numerical competence in chimpanzees, horses, and tortoises
3. 学会等名 第61回プリマーテス研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Wilson, D. A., & Tomonaga, M.
2. 発表標題 How do chimpanzees discriminate primate species based on faces?
3. 学会等名 第61回プリマーテス研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Gao, J., Su, Y., Tomonaga, M., & Matsuzawa, T.
2. 発表標題 Learning the rock-paper-scissors game rule in chimpanzees and children
3. 学会等名 第61回プリマーテス研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 櫻井夏子・都築ななえ・亀垣ななみ・友永雅己
2. 発表標題 ハンドウイルカにおけるエコロケーションによる数の認識
3. 学会等名 第61回プリマーテス研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kim, Y., Choe, J., Kim, D.S., Tomonaga, M.
2. 発表標題 Chimpanzees but not orangutans display aversive reactions toward their partner receiving a superior reward
3. 学会等名 第61回プリマーテス研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 川口ゆり・友永雅己
2. 発表標題 ヒト以外の動物も赤ちゃんが好き？：経過報告
3. 学会等名 京都大学こころの先端研究ユニット総会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Gao, J., & Tomonaga, M.
2. 発表標題 ody inversion effect in chimpanzees (Pan troglodytes)
3. 学会等名 京都大学こころの先端研究ユニット総会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 友永雅己
2. 発表標題 海のこころ 「イルカからみた世界」をさぐる旅
3. 学会等名 第2回水族館大学 in 京都、『イルカショーの可能性と未来』
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山本知里・二階堂梨沙・柏木伸幸・大塚美加・友永雅己
2. 発表標題 ハンドウイルカの子どもにおけるトリックの模倣学習
3. 学会等名 第7回動物園大学「ず～ぞなもし」
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 森阪匡通
2. 発表標題 野生と飼育下のイルカをつなぐ
3. 学会等名 第2回水族館大学「イルカショーの可能性と未来」(招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Tadamichi Morisaka
2. 発表標題 Acoustic studies: basics of sound properties, linkages with ecological studies on dolphins, and applications
3. 学会等名 Workshop on South Asian River Dolphins: Ecology and Conservation (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Tadamichi Morisaka
2. 発表標題 Temporal patterning differences in contact calls among odontocetes' species
3. 学会等名 5th Joint Meeting of the Acoustical Society of America and the Acoustical Society of Japan (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 北夕紀, 村山美穂, 小木万布, 森阪匡通, 酒井麻衣, 椎名隆
2. 発表標題 御蔵島に生息するミナミハンドウイルカ (<i>Tursiops aduncus</i>) の血縁解析
3. 学会等名 第25回日本DNA多型学会学術集会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 吉田瑞希, 森阪匡通, 稲田喜信, 米良由希, 藤原克則, 浅川弘, 若林郁夫
2. 発表標題 ハイスピードカメラを用いた小型イルカの呼吸時の姿勢に関する予備的研究
3. 学会等名 平成29年度日本水産学会春季大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Imura, T., Kawakami, F., Shirai, N., & Tomonaga, M.
2. 発表標題 Ensemble perception of size in chimpanzees and humans
3. 学会等名 Vision Sciences Society 2016 Annual Meeting (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Shirai, N. & Imura, T.
2. 発表標題 Emergence of implied motion perception in human infants
3. 学会等名 Vision Sciences Society 2016 Annual Meeting (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Imura, T., Masuda, T., Wada, Y., Tomonaga, M., & Okajima, K.
2. 発表標題 Chimpanzees (Pan troglodytes) can perceive the freshness of foods
3. 学会等名 The 2016 Joint meeting of the International Primatological Society and the American Society of Primatologists (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Shirai, N. & Imura, T.
2. 発表標題 Gaze patterns to the focus of a radial optic flow in school age children
3. 学会等名 39th European Conference on Visual Perception (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 伊村知子・白井述・岡本-パーツ早苗
2. 発表標題 購買行動において他者の評価が商品の価値評価に及ぼす影響： willingness-to-payを指標として
3. 学会等名 日本基礎心理学会第35回大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 中原史生
2. 発表標題 イルカ音響タッチパネルの開発と音響および認知研究への活用
3. 学会等名 2016年度勇魚会シンポジウム (招待講演)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 宮本春奈・岩原由佳・幅祥太・中原史生・大泉宏・斎野重夫・山本友紀子・吉岡基・三谷曜子
2. 発表標題 北海道東部海域におけるシャチ (Orcinus orca) の分布と生息環境
3. 学会等名 2016年度勇魚会シンポジウム
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 佐々木史織・吉岡基・大泉宏・幅祥太・三谷曜子・斎野重夫・中原史生・山本友紀子
2. 発表標題 北海道東部海域に出現するシャチのコールタイプからみた群れ間関係とその発生状況について
3. 学会等名 平成29年度日本水産学会春季大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kimura, M., Miyashita, K., Mitani, Y., Harada, J., Onodera, M., Yamada, A., Tajima, A.
2. 発表標題 The learning abilities of harbor seal (<i>Phoca vitulina</i>) to novel object and prey
3. 学会等名 日本動物心理学会第76回大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Tsujii, K., Otsuki, M., Akamatsu, T., Matsuo, I., Amakasu, K., Kitamura, M., Kikuchi, T., Miyashita, K., Mitani, Y.
2. 発表標題 Seasonal acoustic presence of fin and bowhead whales in relation to prey abundance and oceanographic environments in the southern Chukchi Sea
3. 学会等名 5th Joint Meeting Acoustical Society of America and Acoustical Society of Japan (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Otsuki M., Akamatsu T., Nobetsu T., Mitani Y.
2. 発表標題 Presence of ribbon seal vocalizations are related to sea ice extent in the Nemuro Strait, the Okhotsk Sea
3. 学会等名 5th Joint Meeting Acoustical Society of America and Acoustical Society of Japan (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 神保美渚, 辻井浩希, 水口大輔, 三谷曜子
2. 発表標題 受動的音響モニタリング手法を用いたアゴヒゲアザラシの分布調査
3. 学会等名 2016年度勇魚会シンポジウム
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 宮本春奈, 岩原由佳, 幅祥太, 中原史生, 大泉宏, 斎野重夫, 山本友紀子, 吉岡基, 三谷曜子
2. 発表標題 北海道東部海域におけるシャチ (<i>Orcinus orca</i>)の分布と生息環境
3. 学会等名 2016年度勇魚会シンポジウム
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Koki Tsujii, Mayuko Otsuki, Tomonari Akamatsu, Ikuo Matsuo, Kazuo Amakasu, Minoru Kitamura, Takashi Kikuchi, Kazushi Miyashita, Yoko Mitani.
2. 発表標題 Migration Monitoring of Fin Whales in the Southern Chukchi Sea with Acoustic Methods during 2012-2015
3. 学会等名 Techno-Ocean 2016
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Otsuki M, Akamatsu T, Nobetsu T, Mitani Y
2. 発表標題 Diversity of Marine Mammal Vocalizations off Rausu, Shiretoko, Northern Japan
3. 学会等名 Techno-Ocean 2016
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Otsuki M., Akamatsu T., Nobetsu T., Mitani Y
2. 発表標題 Temporal distribution of ribbon seal vocalizations in the Nemuro Strait, the Okhotsk Sea
3. 学会等名 The Tenth Annual Meeting of Asian Fisheries Acoustics Society
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Jimbo, M., Tsujii, K., Mizuguchi, D., Miyashita, K., Mitani Y
2. 発表標題 The passive acoustic monitoring of bearded seals at the southern Chukchi Sea during 2012 - 2015
3. 学会等名 The Tenth Annual Meeting of Asian Fisheries Acoustics Society
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Jimbo, M., Tsujii, K., Mizuguchi, D., Miyashita, K., Mitani, Y
2. 発表標題 The relationships between vocalizing bearded seals and sea ice extent in the southern Chukchi Sea
3. 学会等名 5th Joint Meeting Acoustical Society of America and Acoustical Society of Japan (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Hayashi M
2. 発表標題 Development of object manipulation as a foundation of drawing behavior
3. 学会等名 The 31st International Congress of Psychology (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Hayashi M
2. 発表標題 Support for mothering in chimpanzees and orangutans
3. 学会等名 The 31st International Congress of Psychology (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Hayashi M
2. 発表標題 Cognitive development assessed by object-manipulation tasks in chimpanzees and bonobos
3. 学会等名 The 26th Congress of the International Primatological Society (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Hayashi M
2. 発表標題 Juvenile learning of stone-tool use in wild chimpanzees of Bossou, Guinea, West Africa
3. 学会等名 The 8th World Archaeological Congress (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Hayashi M
2. 発表標題 Ex-situ conservation efforts in Bukit Merah Orang Utan Island, Perak, Malaysia
3. 学会等名 The 6th International Symposium on Primatology and Wildlife Science (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Hayashi M, Takeshita H
2. 発表標題 Object manipulation studies in great apes and humans
3. 学会等名 第61回プリマーテス研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Hayashi M, Takeshita H
2. 発表標題 Studies on object manipulation and tool use in great apes and humans
3. 学会等名 The 7th International Symposium on Primatology and Wildlife Science (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Allanic M, Hirata S, Hayashi M, Matsuzawa T
2. 発表標題 Influence of inter-individual distance on grooming interaction in captive chimpanzees and bonobos
3. 学会等名 The 31st International Congress of Psychology (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Allanic M, Hirata S, Hayashi M, Matsuzawa T
2. 発表標題 Influence of inter-individual distance on grooming interaction in captive chimpanzees and bonobos
3. 学会等名 The 26th Congress of the International Primatological Society (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Gonçalves A, Akami R, Hayashi M
2. 発表標題 Two cases of dead infant carrying among captive Japanese Macaques (<i>Macaca fuscata yakui</i>)
3. 学会等名 第61回プリマーテス研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Mendonça R, Kanamori T, Kuze N, Hayashi M, Matsuzawa T
2. 発表標題 Why orangutans develop slower than other great apes? A study on a Bornean population
3. 学会等名 The 31st International Congress of Psychology (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Mendonça R, Kanamori T, Kuze N, Hayashi M, Matsuzawa T
2. 発表標題 Mother-offspring interactions before weaning and behavior of immature Bornean orangutans (<i>Pongo pygmaeus morio</i>) in Danum Valley, Borneo
3. 学会等名 The 26th Congress of the International Primatological Society (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Saito A, Hayashi M, Takeshita H, Matsuzawa T
2. 発表標題 Evolution and development of representational drawing
3. 学会等名 The 31st International Congress of Psychology (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Sakuraba Y, Tomonaga M, Hayashi M
2. 発表標題 Walking rehabilitation of a physically disabled chimpanzee using cognitive tasks: a case study
3. 学会等名 The 31st International Congress of Psychology (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 林美里
2. 発表標題 チンパンジーの母親による保育を「介助」する
3. 学会等名 第19回SAGAシンポジウム
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Tanaka M
2. 発表標題 Serial learning in zoo primates -cognitive enrichment and exhibition of primate intelligence in Kyoto City Zoo- (PS27A-06-328)
3. 学会等名 31st International Congress of Psychology (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Yamanashi Y, Matsunaga M, Shimada K, Kado R, Tanaka M
2. 発表標題 How do chimpanzees acquire new behavioral patterns in a zoo?: application of knowledge derived from cognitive studies to zoo animal welfare (CS27-16-1)
3. 学会等名 31st International Congress of Psychology (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Tanaka M
2. 発表標題 Serial learning and working memory in an infant western gorilla (Gorilla gorilla)
3. 学会等名 Joint meeting of the International Primatological Society and the American Society of Primatologists (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 高野中学科学部・田中正之・和田晴太郎
2. 発表標題 ゾウとシマウマの糞から作った肥料の評価
3. 学会等名 第19回SAGAシンポジウム
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 吉田信明・田中正之・和田晴太郎
2. 発表標題 システムによる飼育日誌作成支援に向けた日誌データの分析
3. 学会等名 第19回SAGAシンポジウム
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 清水美帆・吉田信明・田中正之・和田晴太郎
2. 発表標題 オープンソースソフトウェアを活用したアジアゾウの行動取得システム
3. 学会等名 第19回SAGAシンポジウム
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 山梨裕美・松永雅之・伊藤二三夫・板東はるな・水野章裕・島田かなえ・門竜一郎・田中正之・野上悦子・平田聡
2. 発表標題 飼育チンパンジーのベッド作り
3. 学会等名 第19回SAGAシンポジウム
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Tanaka M, Nagao M, Mizuno A
2. 発表標題 Serial learning of Arabic numerals and working memory in a captive infant western gorilla
3. 学会等名 第76回日本動物心理学会大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 高木直子・田中正之・和田晴太郎・釜鳴宏枝・松永雅之
2. 発表標題 希少種イチモンジタナゴの飼育下繁殖と野生再導入を通じた市民への環境教育
3. 学会等名 自然保護助成基金第22回成果発表会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Adachi I.
2. 発表標題 Primate Origins of Conceptual Metaphor
3. 学会等名 Joint meeting of the International Primatological Society and the American (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Adachi I, Diamond R, Hampton RR.
2. 発表標題 Spontaneous Spatial Mapping of order in nonhuman primates
3. 学会等名 The 31st International Congress of Psychology (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Adachi I
2. 発表標題 Comparative approaches on crossmodal correspondences
3. 学会等名 The 31st International Congress of Psychology (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Adachi I
2. 発表標題 Cross modal correspondences in non human primates
3. 学会等名 The 5th International Symposium on Primatology and Wildlife Science (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山田祐樹
2. 発表標題 認知心理学からみた好き嫌い
3. 学会等名 日本木材学会抽出成分利用研究会 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山田祐樹
2. 発表標題 認知心理学の周辺事態
3. 学会等名 第13回KG-RCSPセミナー（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 大竹裕香・郷原皓彦・中響子・米満文哉・佐々木恭志郎・奥村優子・渡邊直美・藤田早苗・服部正嗣・山田祐樹・小林哲生
2. 発表標題 絵本検索システム「びたりえ」を用いた絵本探し支援の効果
3. 学会等名 電子情報通信学会HCS研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 松原和也・角谷雄哉・山田祐樹・木村敦・曲山幸生・宮ノ下明大・日下部裕子・和田有史
2. 発表標題 昆虫の可食性に関する顕在的・潜在的態度
3. 学会等名 日本視覚学会2017年冬季大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 郷原皓彦・山田祐樹
2. 発表標題 交差・反発知覚を決定づける運動方向の上下異方性
3. 学会等名 日本視覚学会2017年冬季大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 佐々木恭志郎・山田祐樹
2. 発表標題 クラウドソーシングによる知覚研究 コントラスト感度測定の場合
3. 学会等名 電子情報通信学会HIP研究会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 佐々木恭志郎・郷原皓彦・大竹裕香・米満文哉・中響子・奥村優子・渡邊直美・藤田早苗・服部正嗣・山田祐樹・小林哲生
2. 発表標題 絵本検索システムを用いた図書館での母親の絵本探し支援の試み
3. 学会等名 九州心理学会第77回大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 米満文哉・佐々木恭志郎・郷原皓彦・山田祐樹
2. 発表標題 おそくんは実写化すると不気味になる 多重重複顔によるクローン減価効果
3. 学会等名 九州心理学会第77回大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 郷原皓彦・山田祐樹
2. 発表標題 交差・反発知覚は感情処理とリンクする
3. 学会等名 九州心理学会第77回大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 古屋謙治・田村茂彦・早川敏之・安田章人・山形伸二・山田琢磨・山田祐樹
2. 発表標題 課題協学科目：九州大学基幹教育における全1年生必修の文理混合PBL型授業
3. 学会等名 大学教育学会2016年度課題研究集会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 藤村颯・宮城拓弥・黒田剛士・山田祐樹・竹内成生・宮崎真
2. 発表標題 視覚パタンの乱雑さ判断の神経相関 事象関連電位による研究
3. 学会等名 第14回情報学ワークショップ
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 冬野美晴・山田祐樹
2. 発表標題 スピーチ訓練のためのバーチャルオーディエンスの開発と検証
3. 学会等名 第23回日本教育メディア学会年次大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 郷原皓彦・米満文哉・中響子・佐々木恭志郎・大竹裕香・奥村優子・渡邊直美・服部正嗣・藤田早苗・山田祐樹・小林哲生
2. 発表標題 こどもの興味にぴったりの絵本検索システム「びたりえ」を用いた福岡市東図書館での試み
3. 学会等名 第18回図書館総合展
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 米満文哉・佐々木恭志郎・郷原皓彦・山田祐樹
2. 発表標題 どうして一休さんはクリエイティブなのか？ 創造性と閉眼
3. 学会等名 中国四国心理学会第72回大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 米満文哉・井隼経子・山田祐樹
2. 発表標題 心理的レジリエンスと時間的注意特性 注意の瞬きを用いた検討
3. 学会等名 日本基礎心理学会第35回大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 薛玉テイ・茶谷研吾・宇土裕亮・ヤオケイエイ・山田祐樹
2. 発表標題 目目目目目目目目 社会不安とトライポフォビアと衆目恐怖
3. 学会等名 日本基礎心理学会第35回大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 佐々木恭志郎・山田祐樹
2. 発表標題 モノの所有感と行為主体感の共通基盤
3. 学会等名 日本基礎心理学会第35回大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 郷原皓彦・山田祐樹
2. 発表標題 比喩的な視聴覚手がかりによる運動事象知覚の変容
3. 学会等名 日本基礎心理学会第35回大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 石井健太郎・進藤友馬・山田真世・浅川淳司・山田祐樹・岡崎善弘
2. 発表標題 拡張現実感を利用した子どもの読書活動の促進
3. 学会等名 第15回情報科学技術フォーラム
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 山田祐樹
2. 発表標題 好き嫌いの認知心理学
3. 学会等名 日本心理学会公開シンポジウム 高校生のための心理学講座シリーズ「心理学と社会 こころの不思議を解き明かす」
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Fuyuno, M., Yamashita, Y., Yamada, Y., & Nakajima, Y.
2. 発表標題 Developing effective instructions to decrease Japanese speaker's nervousness during English and Japanese public speeches: Evidence from psychological and physiological measurements
3. 学会等名 The 31st International Congress of Psychology (国際学会)
4. 発表年 2016年

1 . 発表者名 Sasaki, K., & Yamada, Y.
2 . 発表標題 Sense of object ownership and sense of agency
3 . 学会等名 The 31st International Congress of Psychology (国際学会)
4 . 発表年 2016年

1 . 発表者名 Xue, Y., Chaya, K., Uto, Y., Yao, Q., & Yamada, Y.
2 . 発表標題 Fear of eyes: The influence of social anxiety on tryophobic eyes
3 . 学会等名 The 31st International Congress of Psychology (国際学会)
4 . 発表年 2016年

1 . 発表者名 Gobara, A., Yamada, Y., & Miura, K.
2 . 発表標題 Sound symbolism modulates perceptual judgment on dynamic events
3 . 学会等名 The 31st International Congress of Psychology (国際学会)
4 . 発表年 2016年

1 . 発表者名 Shigyo, M., Tsuzuki, N., Hamakawa, M., Tamura, K., Yamada, Y., Ishikawa, H., Kimura, A., Morinaga, M., Matsumune, N., & Okamoto, T.
2 . 発表標題 The emotional and electrophysiological effects of odor masking
3 . 学会等名 The 17th International Symposium on Olfaction and Taste (ISOT2016) (国際学会)
4 . 発表年 2016年

1. 発表者名 薛玉テイ・郷原皓彦・佐々木恭志郎・山田祐樹
2. 発表標題 触覚オノマトペは素材に対する視覚的嫌悪感を変調する
3. 学会等名 日本認知心理学会第14回大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 佐々木恭志郎・山田祐樹
2. 発表標題 縦のつながりは支配的：空間と感情の連合の異方性
3. 学会等名 日本認知心理学会第14回大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 郷原皓彦・山田祐樹
2. 発表標題 回転運動の交差・反発知覚-局所的な回転運動情報による剛体運動の見えの変容-
3. 学会等名 日本認知心理学会第14回大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 佐々木恭志郎・山田祐樹
2. 発表標題 クロノ・トリガー：規則性が誘発する時間バイアス
3. 学会等名 日本時間学会第8回大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 郷原皓彦・佐々木恭志郎・山田祐樹
2. 発表標題 オノマトベから想起される自伝的記憶の古さ
3. 学会等名 日本時間学会第8回大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 山田祐樹
2. 発表標題 クラウドソーシングだいすき
3. 学会等名 第2回食・心理・脳と応用技術の意見交換会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Imura, T., Kawakami, F., Shirai, N., Tomonaga, M.
2. 発表標題 Visual processing of average size in chimpanzees.
3. 学会等名 38th European Conference on Visual Perception
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 伊村知子・川上文人・白井述・友永雅己
2. 発表標題 チンパンジーとヒトにおける平均サイズの知覚.
3. 学会等名 日本基礎心理学会第34回大会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 友永雅己
2. 発表標題 指定討論
3. 学会等名 日本心理学会第79回大会公募シンポジウム「わたしたちがもっと見つめる先: 視線認知をめぐる先端研究(三つ目がとおる)」
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 友永雅己
2. 発表標題 イルカはヒトをどう見ているか.
3. 学会等名 日本心理学会第79回大会公募シンポジウム「異種間で伝達される社会的シグナルの探求」.
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 友永雅己
2. 発表標題 (Do) chimpanzees see a face on Mars (?): Pareidolia, or perception of face-like stimuli in chimpanzees.
3. 学会等名 日本心理学会第79回大会公募シンポジウム「パレイドリア~その先にあるもの」
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Kurosawa, Y., & Tomonaga, M.
2. 発表標題 Do chimpanzees try to increase their "assets"?
3. 学会等名 日本動物心理学会第75回大会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Tomonaga, M., & Kawakami, F.
2. 発表標題 How chimpanzees perceive human and chimpanzee eyes?
3. 学会等名 日本動物心理学会第75回大会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 黒澤圭貴・友永雅己
2. 発表標題 チンパンジーは「投資」をするのか？
3. 学会等名 第31回日本霊長類学会大会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Yu, L., & Tomonaga, M.
2. 発表標題 Unidirectional tempo convergence in pairs of chimpanzees: an examination under face-to-face setup.
3. 学会等名 第31回日本霊長類学会大会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Wilson, D., Vick, S.-J., & Tomonaga, M.
2. 発表標題 Can eye preferences I response to emotional stimuli used as a welfare measure in captive capuchin monkeys?
3. 学会等名 第31回日本霊長類学会大会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Gonseth, C., Kawakami, F., Ichino, E., & Tomonaga, M.
2. 発表標題 An experimental study of distance encoding mechanism in chimpanzees signaling.
3. 学会等名 第31回日本霊長類学会大会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Kim, Y., & Tomonaga, M.
2. 発表標題 Disadvantageous inequity influences chimpanzees' aversive reaction, but not their prosocial choice.
3. 学会等名 第31回日本霊長類学会大会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 友永雅己・酒井基行・田中由浩・佐野明人
2. 発表標題 Feel the Force - チンパンジーにおけるトラックボールを用いた力覚弁別.
3. 学会等名 第31回日本霊長類学会大会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 綿貫宏史朗・奥村文彦・打越万喜子・友永雅己・平田聡・伊谷原一・松沢哲郎
2. 発表標題 国内飼育下フクロテナガザルにおける適切な個体群管理に向けた個体情報収集と評価.
3. 学会等名 第31回日本霊長類学会大会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Gao, J., Tomonaga, M., Matsuzawa, T., & Su, Y.
2. 発表標題 The rock-paper-scissors game in chimpanzees (Pan troglodytes).
3. 学会等名 第31回日本霊長類学会大会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 友永雅己・熊崎清則・Camus, F.・Nicod, S.・Pereira, C.・松沢哲郎
2. 発表標題 Clever Hans 2016 - ウマにおけるタッチパネルを用いた相対的な数の大小判断.
3. 学会等名 日本家畜管理学会・応用動物行動学会2016年度春季研究発表会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Tomonaga, M.
2. 発表標題 Exploring the perceptual world from the comparative-cognitive perspective.
3. 学会等名 The 5th International Symposium on Primatology and Wildlife Science/ Hominization Symposium (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Gonseth, C., Kawakami, F., Ichino, E., & Tomonaga, M.
2. 発表標題 Distance-specific referential signals in chimpanzees (Pan troglodytes).
3. 学会等名 The 5th International Symposium on Primatology and Wildlife Science/ Hominization Symposium (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 友永雅己
2. 発表標題 チンパンジーからみたこころの進化.
3. 学会等名 2015年度京大モンキーキャンパス(第2回)(招待講演)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 友永雅己
2. 発表標題 森のこころ、海のこころ 野生の認知科学に向けて
3. 学会等名 公開シンポジウム「心の先端研究の現在とこれから」
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 友永雅己
2. 発表標題 イルカから見た世界2015:水族館との共同研究を通して.
3. 学会等名 公開シンポジウム『「イルカ学」水族館からのアプローチ』
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 友永雅己
2. 発表標題 森のこころ、海のこころ、草原のこころ - チンパンジー、イルカ、ウマから見た世界 - .
3. 学会等名 公益財団法人日本モンキーセンター共催中部学院大学公開講座「比較認知発達論」
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 岸本健・安藤寿康・多々良成紀・山田信宏・友永雅己
2. 発表標題 高知県立のいち動物公園のチンパンジー集団における、二卵性のふたごとおとなとの近接関係の4年間の变化.
3. 学会等名 第60回プリマーテス研究会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 伊村知子
2. 発表標題 チンパンジーにおける平均の大きさの知覚.
3. 学会等名 日本基礎心理学会第34回大会サテライトオーラルセッション
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 伊村知子
2. 発表標題 チンパンジーからヒトの心を探る.
3. 学会等名 日本心理学会公開シンポジウム 高校生のための心理学講座(招待講演)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Nakahara, F., Komaba, M., Sato, R., Ikeda, H., Komaba, K., Matsuya, A. & Kawakubo, A.
2. 発表標題 Spontaneous prosocial choice by captive bottlenose dolphins.
3. 学会等名 21st Biennial Conference on the Biology of Marine Mammals (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Sasaki, S., Ohizumi, H., Mizuno, S., Isobe, S., Nakahara, F., Mitani, Y., Yamamoto, Y., Mizukoshi, K., Saino, S., Haba, S. & Yoshioka, M.
2. 発表標題 Saddle patch patterns and acoustic behaviors of the killer whales off Hokkaido, northern Japan.
3. 学会等名 21st Biennial Conference on the Biology of Marine Mammals (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Nakahara, F., Komaba, M., Sato, R., Ikeda, H., Komaba, K., Matsuya, A. & Kawakubo, A.
2. 発表標題 Spontaneous prosocial choice by captive bottlenose dolphins.
3. 学会等名 日本動物心理学会第75回大会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 白木原国雄・中原史生・篠原正典・白木原美紀
2. 発表標題 スナメリの出生率と親子連れ利用海域の評価.
3. 学会等名 平成28年度日本水産学会春季大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 三谷曜子・Andrews RD・幅祥太・宮本春奈・中原史生・大泉宏・斎野重夫・山本友紀子・吉岡基
2. 発表標題 北海道東部海域に出現するシャチの回遊追跡(速報).
3. 学会等名 平成28年度日本水産学会春季大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 水越楓・山本友紀子・大泉宏・幅祥太・斎野重夫・三谷曜子・中原史生・佐々木史織・吉岡基・幸島司郎
2. 発表標題 北海道東部に来遊するシャチの音声行動.
3. 学会等名 平成28年度日本水産学会春季大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Tanaka M, Maegaki S, Itoh F, Sasaki T, Nagao M
2. 発表標題 Spatial use of western gorillas at a new Kyoto City Zoo -An exhibition of arboreal gorilla-.
3. 学会等名 49th congress of the International Society for Applied Ethology (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 田中正之
2. 発表標題 動物園動物の幸福のためにできること - 京都市動物園の取り組みの紹介 - .
3. 学会等名 第62回日本実験動物学会総会 シンポジウム5「動物園でのサイエンス」(招待講演)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 田中正之
2. 発表標題 動物園動物のこころを探る.
3. 学会等名 日本動物心理学会第75回大会公開シンポジウム「動物園を科学する～動物園のもう一つの楽しみ方～」(招待講演)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 田中正之・松永雅之・島田かなえ・伊藤二三夫・佐々木智子
2. 発表標題 京都市動物園における飼育下霊長類4種における系列学習 - 霊長類の知性を展示する - .
3. 学会等名 第31回日本霊長類学会大会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 田中正之, 水野章裕, 松永雅之, 長尾充徳
2. 発表標題 群れ飼育チンパンジーにおける認知エンリッチメント課題参加意欲に及ぼす影響.
3. 学会等名 日本家畜管理学会・応用動物行動学会2016年度春季合同研究発表会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 岡部光太, 青木翔吾, 有馬春香, 古茂田千尋, 渡辺英博, 伊藤英之, 田中正之, 田中智夫, 植竹勝治
2. 発表標題 飼育下ネコ科動物2種での活魚・マタタビ・絶食に対する反応.
3. 学会等名 日本家畜管理学会・応用動物行動学会2016年度春季合同研究発表会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 萩原慎太郎・森村成樹・田中正之・岡本智伸・伊藤秀一
2. 発表標題 アジアゾウにおける行動の左右差に関するアンケート調査.
3. 学会等名 日本家畜管理学会・応用動物行動学会2016年度春季合同研究発表会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 森阪匡通
2. 発表標題 「音の匠」受賞記念講演 音の世界に生きるイルカ
3. 学会等名 東海大学海洋研究所2015年研究発表会（招待講演）
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 森阪匡通
2. 発表標題 イルカの「ステルス」戦略
3. 学会等名 エアロ・アクアバイオメカニズム学会第33回定例講演会（招待講演）
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Morisaka T
2. 発表標題 Dolphin acoustics with special focus on Ganges River dolphins.
3. 学会等名 National Workshop on Practices & Tools of Biodiversity Conservation in Protected Areas（招待講演）
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 森阪匡通
2. 発表標題 フィールドのイルカ研究者が地域や他分野の研究者と連携できること.
3. 学会等名 日本古生物学会第165回例会普及講演会「学術・地域・次世代をむすぶ大学博物館 京のイルカと海から考える、研究の「縦系 横系」」 （招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 森阪匡通
2. 発表標題 イルカを学び、イルカから学ぶ.
3. 学会等名 東海大学マイクロ・ナノ啓発会第6回学術講演会(招待講演)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Morisaka T
2. 発表標題 Acoustic research in Vikramshila Gangetic Dolphin Sanctuary.
3. 学会等名 International Symposium "The Ganges River Dolphins" (招待講演)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Morisaka T, Sakai M, Kogi K and Hama H,
2. 発表標題 A simple, non-invasive measurement method important for conserving large animals underwater
3. 学会等名 The 9th International Conference on Genetic and Evolutionary Computing (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Yayoi Yoshida, Tadamichi Morisaka, Mai Sakai, Tomonari Akamatsu, Shiro Kohshima
2. 発表標題 Estimation of the lag time in the echolocation task of captive Commerson's dolphins.
3. 学会等名 The 2nd Annual Meeting of the Society for Bioacoustics (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Morisaka T, Sakai M, Kogi K,
2. 発表標題 Finding of a free-ranging Indo-Pacific bottlenose dolphin with cataract of left eye.
3. 学会等名 Vth International Wildlife Management Congress (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Sakakibara K, Kogi K, Sakai M, Morisaka T, Kohshima S
2. 発表標題 Differences of “Inquiring” behaviors to underwater swimmers by sex and age class in the wild dolphins.
3. 学会等名 21st Biennial Conference on the Biology of Marine Mammals (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Tajima N, Sakai M, Morisaka T, Kogi K, Takeda S.
2. 発表標題 Developmental analysis of synchronous breathing in wild Indo-Pacific bottlenose dolphins (<i>Tursiops aduncus</i>) around Mikura island in Japan: from neonate to five-year-old calves.
3. 学会等名 21st Biennial Conference on the Biology of Marine Mammals (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Sakaguchi A., Morisaka T, Miyamoto Y.
2. 発表標題 Loop structure in the whistles of Indo-Pacific bottlenose dolphins (<i>Tursiops aduncus</i>).
3. 学会等名 21st Biennial Conference on the Biology of Marine Mammals (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Sakai M, Kita YF, Kogi K, Shinohara M, Morisaka T, Shiina T, Inoue-Murayama M.
2. 発表標題 A wild Indo-Pacific bottlenose dolphin adopts a socially and genetically distant neonate.
3. 学会等名 21st Biennial Conference on the Biology of Marine Mammals (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Sakai M, Kita YF, Kogi K, Shinohara M, Morisaka T, Shiina T, Inoue-Murayama M
2. 発表標題 A wild Indo-Pacific bottlenose dolphin adopts a socially and genetically distant neonate.
3. 学会等名 International Symposium "The Ganges River Dolphins" (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Takagi H, Morisaka T, Nishibayashi A, Yoshizawa S, Okazaki T, Shimomura M, Tohtake M, Ohizumi H
2. 発表標題 Effects of the learning environment on the signature whistle characteristics in bottlenose dolphins (<i>Tursiops truncatus</i>).
3. 学会等名 International Symposium "The Ganges River Dolphins" (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Nishibayashi A, Morisaka T, Ohizumi H
2. 発表標題 reliminary study of individual identification using signature whistles of free-ranging wild bottlenose dolphins (<i>Tursiops truncatus</i>).
3. 学会等名 International Symposium "The Ganges River Dolphins" (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Miyake M, Nara S, Inada Y, Takahashi S, Sakai M, Morisaka T
2. 発表標題 Experimental study on fluid dynamics of dolphin drafting.
3. 学会等名 International Symposium “The Ganges River Dolphins” (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Sakakibara K, Kogi K, Sakai M, Morisaka T, Kohshima S
2. 発表標題 Approach behaviors to underwater swimmers in the wild dolphins.
3. 学会等名 International Symposium “The Ganges River Dolphins” (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Yoshida Y, Morisaka T, Nakahara F, Saito S
2. 発表標題 Sound transmission loss of three thickness acrylic-plate: towards simplification of dolphin sound study at aquarium-.
3. 学会等名 International Symposium “The Ganges River Dolphins” (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 山田祐樹
2. 発表標題 錯覚される感情
3. 学会等名 第10回錯覚ワークショップ「錯覚科学への心理学的アプローチと現象数理的アプローチ」(招待講演)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 山田祐樹
2. 発表標題 刑事法廷での量刑判断は座席と利き手の左右に左右される
3. 学会等名 日本心理学会公開シンポジウム「常識を超える心理学・なぞる心理学」(招待講演)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 山田祐樹
2. 発表標題 刑事法廷での量刑判断は座席と利き手の左右に左右される
3. 学会等名 日本心理学会公開シンポジウム「常識を超える心理学・なぞる心理学」(招待講演)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 佐々木恭志郎・山田祐樹・黒木大一朗・三浦佳世
2. 発表標題 密集体への不快感は空間周波数に基づくのか?
3. 学会等名 日本基礎心理学会第34回大会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 山田祐樹・Juan Correa・Gopal Sakarkar・Giang Ngo・Susana Ruiz-Fernández・Natalie Butcher・Fernando Marmolejo-Ramos
2. 発表標題 悲しみと喜びのあいだ - 6つの文化間で共通する驚きの身体性 -
3. 学会等名 日本心理学会第79回大会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 山田祐樹
2. 発表標題 乱雑な空間パターンはヒトの内部でどのように処理されているのか？
3. 学会等名 第39回人間環境学府マンスリー学際サロン
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 山田祐樹
2. 発表標題 好き嫌いの認知心理学
3. 学会等名 日本心理学会公開シンポジウム 高校生のための心理学講座シリーズ「心理学と社会 こころの不思議を解き明かす」
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Marmolejo-Ramos, F., Correa, J. C., Sakarkar, G., Ngo, G., Ruiz-Fernández, S., Butcher, N., & Yamada, Y.
2. 発表標題 The place of joy, surprise and sadness in vertical space.
3. 学会等名 The 6th International Conference on Spatial Cognition (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Butcher, N., Correa, J. C., Sakarkar, G., Ngo, G., Ruiz-Fernández, S., Yamada, Y., Marmolejo-Ramos, F.
2. 発表標題 A cross-linguistic study of the embodiment of joy, surprise and sadness in vertical space.
3. 学会等名 The 32nd Annual meeting of the BPS Cognitive Psychology section (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 三谷曜子・宮下和士・山本 潤・片山誓花・小林万里
2. 発表標題 VPS 測位システムによるゼニガタアザラシの行動追跡～北海道襟裳岬のサケ定置網周辺への出現～.
3. 学会等名 平成27年度日本水産学会春季大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 三谷曜子・Russel D. Andrews・幅 祥太・宮本春奈・中原史生・大泉 宏・斎野重夫・山本友紀子・吉岡 基
2. 発表標題 北海道東部海域に出現するシャチの回遊追跡(速報).
3. 学会等名 平成27年度日本水産学会春季大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Yoko Mitani; Daisuke Saijo; Takuzo Abe; Hiroko Sasaki; Daniel Costa; Chandra Goetsch; Kazushi Miyashita
2. 発表標題 Hunting in the dark depths: Prey abundance and distribution in the mysterious world of a deep-diving predator, the northern elephant seal.
3. 学会等名 21st Biennial Conference on the Biology of Marine Mammals (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 伊藤遼平・藤森康澄・小林由美・桜井泰憲・三谷曜子・蔵本洋介
2. 発表標題 北海道襟裳地域のサケ定置網内におけるゼニガタアザラシとサケの行動観測
3. 学会等名 平成27年度日本水産学会春季大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名	Midori Ishii; Hiroto Murase; Yoshiaki Fukuda; Kouichi Sawada; Toyoki Sasakura; Tsutomu Tamura; Takeharu Bando; Koji Matsuoka; Akira Shinohara; Sayaka Nakatsuka; Nobuhiro Katsumata; Kazushi Miyashita; Yoko Mitani
2. 発表標題	Observation of diving behavior of sei whales in relation to vertical distribution of their prey.
3. 学会等名	21st Biennial Conference on the Biology of Marine Mammals (国際学会)
4. 発表年	2015年

1. 発表者名	Takanori Horimoto; Svetlana Artyemyeva; Peter Permyakov; Mari Kobayashi; Kaoru Hattori; Hiromi Kasai; Hiroshige Tanaka; Yoshinori Ikenaka; Shouta Nakayama; Hazuki Mizukawa; Mayumi Ishizuka; Vladimir Burkanov; Russel Andrews; Yoko Mitani; Yasunori Sakurai
2. 発表標題	The habitat use of northern fur seals <i>Callorhinus ursinus</i> around northern Japan during non-breeding season, defined from stable isotopes and trace elements in whiskers.
3. 学会等名	21st Biennial Conference on the Biology of Marine Mammals (国際学会)
4. 発表年	2015年

1. 発表者名	林成幸・津田裕一・宇野睦実・伊東隆臣・恩田紀代子・三谷曜子・宮下和士
2. 発表標題	加速度ロガーを用いたミナミイワトビペンギンの交尾行動特定.
3. 学会等名	第63回動物園技術者研究会
4. 発表年	2015年

1. 発表者名	Yuka Iwahara, Hokuto Shirakawa, Kazushi Miyashita, Yoko Mitani
2. 発表標題	Foraging Distribution of Pacific White-Sided Dolphin, Dall ' S Porpoise and Harbor Porpoise around Hokkaido, Japan.
3. 学会等名	Vth International Wildlife Management Congress 2015 (国際学会)
4. 発表年	2015年

1. 発表者名 Taisho Hakuman, Takanori Horimoto, Hiromi Kasai, Hiroshige Tanaka, Orio Yamamura, Mari Kobayashi, Kazushi Miyashita, Yoko Mitani
2. 発表標題 Stable Isotopes In Harbor Seal Whiskers As Indicators Of Seasonal Feeding Patterns.
3. 学会等名 Vth International Wildlife Management Congress 2015 (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 木村舞子・宮下和士・三谷曜子
2. 発表標題 ゼニガタアザラシがサケを口にするまで - 新奇餌生物への摂餌過程.
3. 学会等名 平成27年度日本水産学会春季大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Yuka Iwahara, Shingo Minamikawa, Kazushi Miyashita and Yoko Mitani
2. 発表標題 Spatial distribution factors of Pacific white-sided dolphins around northern Japan.
3. 学会等名 21st Biennial Conference on the Biology of Marine (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Seika Katayama, Kazushi Miyashita, Yoko Mitani
2. 発表標題 Overlap of juvenile harbor seals (<i>Phoca vitulina</i>) foraging areas and salmon fishing grounds around Cape Erimo, Japan.
3. 学会等名 21st Biennial Conference on the Biology of Marine Mammals (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Keizo Ito, Nao Takahashi, Kaoru Hattori, Yoko Goto, TakuyaNakanowatari, Kay I. Ohshima, Takanori Horimoto, Yoshinori Ikenaka, Shouta M. Nakayama, Hazuki Mizukawa, Mayumi Ishizuka, Kazushi Miyashita, Yoko Mitani
2. 発表標題 Diet records in winter, migration and diving behavior during early summer of juvenile steller sea lions in the asian stock.
3. 学会等名 21st Biennial Conference on the Biology of Marine Mammals (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Shiori SASAKI, Hiroshi OHIZUMI, Shiho MIZUNO, Shiori ISOBE, Fumio NAKAHARA, Yoko Mitani, Yukiko YAMAMOTO, Kaede MIZUKOSHI, Shigeo SAINO, Shota HABA and Motoi YOSHIOKA
2. 発表標題 Saddle patch patterns and acoustic behaviors of the killer whales off Hokkaido, northern Japan.
3. 学会等名 21st Biennial Conference on the Biology of Marine Mammals (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Koki Tsujii, Mayuko Otsuki, Tomonari Akamatsu, Ikuo Matsuo, Kazuo Amakasu, Minoru Kitamura, Takashi Kikuchi, Kazushi Miyashita, Yoko Mitani
2. 発表標題 Migration timing of fin whales and its relationship to physical and biological environments using passive acoustic methods in the Arctic Sea.
3. 学会等名 21st Biennial Conference on the Biology of Marine Mammals (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Ayako Yamada・Takanori Horimoto・Yoshinori Ikenaka・Shouta M. Nakayama・Hazuki Mizukawa・Mayumi Ishizuka・Yoko Mitani・Kazushi Miyashita
2. 発表標題 Tracing migration of northern fur seals in Russian-Japanese waters using stable isotopes in whiskers.
3. 学会等名 21st Biennial Conference on the Biology of Marine Mammals (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Chandra Goetsch, Melinda Conners, Yoko Mitani, William Walker, Samantha E. Simmons, Colleen Reichmuth, Suzanne Budge, and Daniel P. Costa
2. 発表標題 A game of niches: Dietary differences reveal niche partitioning at multiple scales for a mesopelagic predator.
3. 学会等名 21st Biennial Conference on the Biology of Marine Mammals (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Keiko Sekiguchi, Hiroji Onishi, Yoko Mitani, Toshihide Kitakado
2. 発表標題 Statistical analysis of cetacean sightings from T/S Oshoro Maru summer cruises (2003 to 2013) northward of 48°N in Northern Pacific, Bering and Chukchi Seas.
3. 学会等名 21st Biennial Conference on the Biology of Marine Mammals (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 北 夕紀、増田兼一、堀本高矩、三谷曜子
2. 発表標題 糞を用いたキタオットセイの食性解析ならびに胃内容物解析との比較.
3. 学会等名 日本DNA多型学会第24回学術集会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Keizo Ito, Nao Takahashi, Kaoru Hattori, Yoko Goto, Takuya Nakanowatari, Kay I. Ohshima, Yoko Mitani, Kazushi Miyashita
2. 発表標題 Foraging Trips Of Juvenile Steller Sea Lions During Early Summer In Russian-Japanese Waters.
3. 学会等名 Vth International Wildlife Management Congress 2015 (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Adachi, I.
2. 発表標題 Primate origins of conceptual metaphors- Comparative cognitive approach to cross-modal correspondences.
3. 学会等名 Protolang ~Ways to (proto) language conference series- 4, invited session “Human cognition viewed from the study of chimpanzees” (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Adachi, I.
2. 発表標題 Cross modal correspondences in non human primates.
3. 学会等名 The 5th International Symposium on Primatology and Wildlife Science (国際学会)
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計7件

1. 著者名 伊村知子・白井述	4. 発行年 2018年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 77-85
3. 書名 「第5章 感覚・運動の発達」(第1~3節とコラムを担当) 開一夫・齋藤慈子(編), ベーシック発達心理学	

1. 著者名 Adachi I, Tomonaga M	4. 発行年 2016年
2. 出版社 American Psychological Association (APA)	5. 総ページ数 841 (141-161)
3. 書名 APA Handbook of Comparative Psychology (volume2)	

1. 著者名 友永雅己	4. 発行年 2017年
2. 出版社 放送大学教育振興会	5. 総ページ数 pp.228-255
3. 書名 イルカのころ (放送大学「比較認知科学」)	

1. 著者名 森阪匡通 (水口博也編著)	4. 発行年 2015年
2. 出版社 誠文堂新光社	5. 総ページ数 207
3. 書名 イルカの鳴音について. イルカ生態ビジュアル百科	

1. 著者名 森阪匡通, 酒井麻衣, 山本知里 (菊水健史, 渡辺茂 編)	4. 発行年 2015年
2. 出版社 朝倉書店	5. 総ページ数 179
3. 書名 イルカのケンカと仲直り行動. 情動の進化 -動物から人間へ-	

1. 著者名 山田祐樹	4. 発行年 2016年
2. 出版社 北大路書房	5. 総ページ数 215
3. 書名 気持ち悪さの心理学 三浦佳世 (編) 感性認知 アイステースの心理学	

1. 著者名 Adachi, I., & Tomonaga, M.	4. 発行年 2016年
2. 出版社 APA	5. 総ページ数 未定 (印刷中)
3. 書名 APA Handbook of Comparative Psychology	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>チンパンジー・アイ http://langint.pri.kyoto-u.ac.jp/ai/index-j.html 京都大学霊長類研究所思考言語分野 http://langint.pri.kyoto-u.ac.jp/langint/indexj.html (1) 京都大学霊長類研究所思考言語分野HP http://langint.pri.kyoto-u.ac.jp/langint/indexj.html (2) チンパンジー・アイのHP http://langint.pri.kyoto-u.ac.jp/ai/index-j.html (3) むいぐるみお泊まり会：読書活動の促進と効果の持続性 http://current.ndl.go.jp/e1912 夢ナビライブ2016年名古屋会場の講演の動画 (森阪) https://goo.gl/NfkEMe 京都大学霊長類研究所チンパンジー・アイ「チンパンジーは、葉や果物のハリ、ツヤの違いを区別する」 http://langint.pri.kyoto-u.ac.jp/ai/ja/publication/TomokoImura/ImuraT2016-srep.html</p>
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	森阪 匡通 (MORISAKA Tadamichi) (00422923)	三重大学・生物資源学研究所・准教授 (14101)	
研究分担者	伊村 知子 (IMURA Tomoko) (00552423)	日本女子大学・人間社会学部・准教授 (32670)	
研究分担者	中原 史生 (NAKAHARA Fumio) (10326811)	常磐大学・総合政策学部・教授 (32103)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	三谷 曜子 (MITANI Yoko) (40538279)	北海道大学・北方生物圏フィールド科学センター・准教授 (10101)	
研究分担者	林 美里 (HAYASHI Misato) (50444493)	京都大学・霊長類研究所・助教 (14301)	
研究分担者	山田 祐樹 (YAMADA Yuki) (60637700)	九州大学・基幹教育院・准教授 (17102)	
研究分担者	田中 正之 (TANAKA Masayuki) (80280775)	京都市動物園・生き物・学び・研究センター・生き物・学 び・研究センター長 (84315)	
研究分担者	足立 幾磨 (ADACHI Ikuma) (80543214)	京都大学・霊長類研究所・准教授 (14301)	